Wild Hunt New Era 2
Beyond Space-time
Kiyohiko Yashima

目次

知られざる宇宙の彼方へ 1
遥かなる時空を越えた旅路 7
汚れた報酬と復讐の行方 13
ローガン大統領の救出作戦 18
迷える宇宙の扉から帰還 26

知られざる宇宙の彼方へ

リチャード・ルノーはFBIのSWATチームに加入したのちにチャイナタウンで過激派の中国人テロが起きてSAWT異種格闘技大会トーナメント終了後に出動命令を受けて航空機に乗り込んだ特殊部隊SWATはアトランタのドビンズ空軍基地からサンフランシスコ軍事基地にたどり着いた。中国人テロ集団はチャイナタウンで警官隊と紛争を続けていたが、ハン率いるテロ集団とウォン率いるテロ集団に分かれていった。ウォン率いるテロ集団はアメリカにいる中国人の人種差別のない内容文書を押収さえるためにサンフランシスコシティの超高層ビルや市営鉄道やバスの中に入って市民を人質に立てこもっていた。SWATチームはテロ集団にハイジャックされた市営鉄道やバスに乗り込んでアサルトライフルでテロ集団を撃っていって、人質を解放した。超高層ビルに突入したSWATチームは上と下の階に別れてライリー・クーガー隊長班のリチャードとロバート・ロドリゲスとレイモンド・チョウとエリザベス・チュウの５人は最上級へ上がっていった。チョウとチュウはカンフーとアサルトライフルでテロ集団を撃っていって、社長室にいた人質を解放させた。リチャードはマーシャル・アーツトレーニングパートナーのロバートと一緒に集会所に突入するとウォンが現れてリチャードとロバートのアサルトライフルを奪って格闘した。リチャードは気絶をして目を覚まして、ウォンの八卦掌（ はっけしょう ）で口から血を吐いて倒れてるロバートを見て怒り狂いマーシャル・アーツの猛攻撃でウォンを倒してロバートの仇を取った。リチャードはロバートのところに行ったら、ロバートが、「来年のSWAT異種格闘技大会はおまえが優勝しろ！」と言って目を閉じた。リチャードのところにクーガー隊長が駆け付けて、「超高層ビルにプラスチック混合爆弾が仕掛けられてるから、下に避難しろ！」と言って、ロバートを置いてチョウとチュウと一緒に非常階段で下された。クーガー隊長はOL女性を非難させて中階まで来たら、レスキュー隊と合流したときに大爆発してクーガー隊長とOL女性とレスキュー隊は犠牲となった。ハン率いるテロ集団はトラックに乗ってカリフォルニアのサンディエゴ海軍基地にたどり着いて基地へ乗り込んでいって、テロ集団が米軍に撃たれていく中で中国人パイロットが戦闘機と輸送機を奪って米軍に攻撃していった。ハン率いるテロ集団の乗る輸送機と中国人パイロットが乗る戦闘機は、ワシントンD.C.へ向かっていった。米軍基地の戦闘機を出動させて戦闘機を奪ったテロ集団を追っていった。SAWTチームは航空機に乗ってワシントンD.C.へ向かっていった。中国人パイロットの乗る戦闘機は戦闘機と陸から発射台誘導ミサイルでワシントンD.C.にたどり着くまで抑えれたはずの輸送機が降り立った。テロ集団は内部省BIA本部ビルに立てこもって政府職員を人質した。ハンは政府職員を脅して内部文書を奪って国会議事堂の中へ内部文書を持っていこうとしたらリチャードとチョウとチュウが待ち構えていた。リチャードとチョウとチュウは中国雑技団の変面を被るハンと格闘した。リチャー

ドはマーシャル・アーツで攻撃したが、ハンの鷹爪拳で倒された。チュウは蛇鶴八歩で攻撃したがハンの鷹爪拳で倒された。チョウは必殺虎拳で攻撃してハンの攻撃をかわして変面が割れた。ハンの正体はチョウのよく知るサンフランシスコ市長のジョーンズ・リーだった。チョウはハンの鷹爪を避けて攻撃していった。ハンは口から血しぶきあげて倒れた。リチャードとチョウは肩を支えあって、チョウのところにやってきた。チョウとチュウは自分たちの州へ戻っていった。リチャードは某アナウンサーのルーシー・ライアンと運命的な出会いをして交際するようになって、２年後に SWAT を離れることにした。リチャードはあれから２年の月日が経って SWAT を退任してルーシーと一緒にロス郊外に引越した。ロス郊外の家に佇むリチャードは、マーシャルアーツ道場を設立して生計を立て１年後にルーシーとの間に息子のスティーブン・ルノーが誕生した。２０年後に青年となって親の反対を押し切って、憧れの宇宙飛行士になるために NASA エアナショナルハイスクール宇宙工学科パイロット育成コースを優秀な成績で卒業して NASA 宇宙飛行士として契約書にサインした。スティーブンは研修で知り合った仲間のブライアン・ハンサカーとジム・ハートリーとリリー・ヘイグルと共に何者かに火星探査機を破壊されたことで調査のためにスペースシャトルに乗って火星へ旅立った。ユース４は火星にたどり着いた。ユース４は火星探査機が破壊された地点へ向かっていった途中で NASA 火星基地に着いて、レーザーガンを受け取って探査車を走らせて地点へ向けていった。ユース４は地点に着いて、火星探査機を調査していたときにクモ型の火星寄生虫ジークの４匹がユース４に襲いかかってきて、レーザーガンで撃っていった。ユース４はジークの３匹を仕留めた。残った１匹がブライアンの宇宙服のメットを突き破って、口と鼻を塞いで窒息させて、倒れたら口の中へ入っていった。目を赤くして立ち上がったブライアンは、ユースの３人に襲いかかっていった。ユース３はやむをえずブライアンをレーザーガンで撃って抑えた。倒れたブライアンは、腹から宇宙服を突き破ってジーク１匹が出ていった。ユース３は探査車で火星スペースコロニーへ向けて、走行中に宇宙船から現れた宇宙飛行隊に攻撃を受けて突っ走って、クレーターに飛び込んでいった。ユース３は宇宙飛行隊の攻撃をなんとか避けたが、クレーターが湖と知らずに飛び込んで探査車は湖の底へ沈んでいった。火星スペースコロニーのマーズタウンよって栄えた火星水道局に湖を発見したことを報告した。ユース３は火星スペースコロニーから外に出て、スペースシャトルに乗り込んだ。ブライアンは凄い音がして、シャトルから外に出て確かめて見たら、宇宙飛行隊が火星スペースコロニーを攻撃していた。ブライアンはシャトルの扉を開けてる間にジーク３匹紛れ込んでると知らずシャトルに戻って地球へ向けてシャトルを発射させた。ユース３はサンディエゴ空軍基地に着いた。ヒューストン競技場に降り立った宇宙船から NASA のブランン局長にパピュラス星人のピトゴラス卿と名乗る異星人が大型モニターを使って資源の提供を交換しないかと現れた。それを反論したブラウン局長に最終宣告を無視したとして宇宙船から宇宙飛行隊を出動させて LA の街が壊滅状態なるまで攻撃していった。NASA は衛星ミサイルで宇宙飛行隊を撃って撃墜していった。シャトルの整備士の３人はジークの３匹が寄生して目を赤くした感染者となって局員に口から口へと移して感染させていった。感染者たちは NASA の外に出て、街の人々にジークを寄生させていった。ジークの感染者を目の赤いヒューマンレッドアイズ (HRE) と呼ばれるようになった。HRE を抑えようと戦うジー

クバスターズという集団が現れて火炎放射器で HRE を火炙りしていった。車で宇宙船に着いたユース３は宇宙船の入口を探した。そこに、「ここでなにしてる！」と言って現れたパピュラス星人の男子ピューゴがジムを背後から長い爪で突き刺した。スティーブンとリリーは倒れたジムの仇をとるためにピューゴをレーザーガンで撃っていった。パピュラス星人のピューゴの母のゼジルが現れてスティーブンに、「宇宙船にいるピューナを助けてやってほしい」と言って扉に位置に近づけると光る青いサファイアを渡してきた。宇宙船に入ったスティーブンとリリーはパユラス星人が宇宙輸送機に乗ってロスの街へ向かっていったために姿がなかった。スティーブンとリリーはピト卿と遭遇したときにリリーが捕らわれた。スティーブンは近くにやってきたピューナを捕えてピューナの首にナイフを突きつけた。スティーブンはピト卿の背後にリチャードが隠れているの見えて、ピト卿の頭にガトリンング銃を向けて構えていた。リチャードは合図を送ってリチャードとピューナとリリーが床に伏せたときにピト卿の脳天をガトリング銃で撃って倒した。スティーブンたちは宇宙船のコアエナジーに時限爆弾を仕掛けた。スティーブンとリチャードとリリーとピューナは宇宙船から外に出て車に乗ってロスの街まで走っていった。宇宙船は１５分後に大爆発した。スティーブンとリチャードはリリーとピューナを安全な場所に降ろしてロスにたどり着いた。スティーブンとリチャードはパピュラス星人にレーザーガンを持ってジークバスターズと手を組んで戦った。スティーブンはパピュラス星人のレーザー光線銃を奪って攻撃していって、ジークバスターズは火炎放射器で攻撃していって、パピュラス星人を殲滅した。アラスカの南西で救助隊が発見したラテン人の男性一人を病院へ運んで輪を持った不思議な物体は警察に引き渡した。警察は宇宙から落ちたハレー彗星か何かだと判断して NASA アメリカの航空宇宙局に連絡してエイムズ研究センターに持ちこ込まれた円形型をした不思議な物体を調させた。科学者のギルバート博士によれば物体ほとんどが鉄塊で出来た隕石と同じ地球外物質であると判明した。ギルバート博士は検査していったら時空を行き来するタイムマシンであると判明して時空転送の門と三次元装置であるとみた。２０年後にて、２０年前より年とったギルバート博士は、エイムズ研究センターに長い間で保管されていた時空転送の門と三次元装置を装置を起動させるのにあらゆる実験をしていったが、ある日に夜でしか動かすことのないエイムズ研究センターで望遠鏡のある天文台の天井のシャッターを全開に開いたときに、太陽の光に反応したことで強い太陽エネルギー源が必要だと解った。ギルバート博士は三次元装置が作動を始めたら漢数字で一八七〇と二〇一六と点滅してることから年号と解って過去にラテン人がアラスカで時空転送の門の前で倒れていた。恐らく日本の時期で言えば明治初期から平成後期にやってきたことになる。じゃあなぜ日本でなくアラスカに転送されたのだろうと思って、三次元装置の中を調べてみた。三次元装置は鉄の塊で破壊して開いて見ることは衝撃を与えては壊れてしまうのでできなかった。傾けてみたときに三次元装置の隙間から水が漏れてきたので三次元装置に何かの原因で水が入って、水を抜いてみて完全に水が抜け切れずに感電ショートして場所が特定できず別の場所にたどり着いたことが解った。ギルバート博士は２０年賭けた成果と人生の最後に三次元装置を色々と探って、年号設定の仕方などを知り得た。ギルバート博士は NASA 本社で実験台になる人材を求めて挑んだ。二十歳になったスティーブンはワシントン D.C. の NASA からいった過去か未来に行って、戻ってこれるか保証のな

い時空転送の門をくぐることができる志願者を求めた知らせを聞いた。スティーブンは隕石と同じ物質で出来た時空転送の門は宇宙の彼方へと通じるかもしれないと思った。スティーブンは志願者５名のうちの一人としてエイムズ研究センターにいるギルバート博士さんを訪ねた。スティーブンはギルバート博士に、「志願した宇宙飛行士のスティーブンです！ 時空転送の門が隕石と同じ物質で出来てる」と言った。宇宙人が作った物体だと思いました。三次元装置の年号が漢数字であることで日本から来たと解って日本で何が起きていたか知らないんですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「ここ数年ほど研究センターにこもって世の中のことがわからなくなっていた」と答えた。スティーブンは、「モンスターが街を襲っていたのです。そのときも宇宙人が作ったとされる時空転送の門をくぐって時空を越えてやってきたでしょう！」と言った。ギルバート博士は、「日本はどうなってたかね？」と聞いた。スティーブンは、「モンスターを追って時空転送の門をくぐってきた忍者たちが倒した」と答えた。ギルバート博士は、「忍者！ 実は三次元装置にドリルで穴をほじあけて胃カメラとして使う内視鏡で検査した。宇宙を構成してるレプトンに分類される電子より強力な素粒子で低温になればガラス状態となって固体化してしまう。なので電子回路の一部が遮断されていたのだ！ 私は研究センターの天井のシャッターを開いて太陽エネルギー源を用いて再生可能なエネルギーに分類されるソーラーパワーの役割をした時空転送の門から三次元装置に送られて高温になったら、ガラス状態は溶けていって、液状化した。そしてロータリー式で三次元トライアングルが起動すると、時空転送の門をくぐれるようになる。しかし、何かの理由で太陽光エネルギー源あっても三次元トライアングルが起動しなかったら元の場所と時間へ戻ってこれなくなる。宇宙人の作り出した物体は地球上にない物質で出来てる。今の技術では難しい。それでもいいのか？」と聞いた。スティーブンは、「はい！ 宇宙人が作った物だからどこかに宇宙へ通じる線があると思うんです！ 俺の夢は同じような銀河系が沢山あって地球に似た惑星があるということをこの目で確かめたいんです！ 俺にいかしてください！ 必ず戻ってきます！」と答えた。ギルバート博士は、「責任は持てないが宇宙に通じたなら四次元だな！ 三次元トライアングルになんらかの異変か故障しかない。宇宙で惑星にたどり着いたら宇宙人に修理してもらわないと戻ってこれんだろう」と言った。スティーブンは、「大丈夫だ！ 宇宙人にどうにかしてもらいます」と言った。ギルバート博士は、「そんな簡単なことではない！ だがわかった！ では過去か未来かどちらに行きたいかね？」と聞いた。スティーブンは、「どちらもいきたいですが、その前に LA 郊外にいる両親に会ってきます！ どちらにいくかは戻ってくるまでに決めます！」と答えた。ギルバート博士は、「いつでもいいぞ！ 準備ができたら、またここにきてくれ！」と言った。スティーブンは局長から明日から特別休暇を許可してもらって NASA の宿舎に戻ってシャワーを浴びてベッドで休んだ。翌朝に目覚めたスティーブンはサンドウィッチとハッシュポテトを食べてオレンジジュースを飲んで着替えて宿舎を後にした。タクシーに乗ってワシントンダレス国際空港まで行って、飛行機でロサンゼルス国際空港に向った。ロサンゼルス国際空港にたどり着いてタクシーで LA 校外にある実家に向っていった。スティーブンは実家ルノー家に着いて家の扉を開いたら４３歳の母ルーシーが迎えて後で１６歳の妹キャメロンが迎えた。スティーブンはルーシーに、「父さんはどこいる？」と聞いた。ルーシーは、「マーシャルアーツ道場にいる！ いつものことだから夕

方頃には帰ってくるでしょうね！」と答えた。スティーブンは、「そうか！」と言ってリビングにあるソファに座ると、キャメロンもソファに座った。スティーブンはキャメロンに、「大きくなったな！」と言った。キャメロンは、「私はパピュラス星人だから成長が早いの！ だけど、近くの高校を通ってる女子高生」と言った。スティーブンは、「もう女子高生か！ そんなに成長が早いと大人になって年とるの早いんじゃない？」と聞いた。うなずくキャメロンは、「どうにもならないよ！」と答えた。スティーブンは、「１年で５歳も年をとるなんてね！ 地球にいたら大変だな！」と言った。ルーシーは、「パピュラス星人に取り残されて、いく当てもないこの子を人間のようで顔とスタイルをして地球人とあんまり変わらないからってリチャードが養子にとったんだけどスティーブンが NASA 本局に１年も経った間にどんどん成長するからびっくりして！」と言った。スティーブンたちは話しをしてる間に夕暮れどきがやってくると、スティーブンとキャメロンの５５歳の父リチャードが帰ってきた。リチャードはスティーブンに、「ようこそルノー邸に！ ワシントン D.C. のほうはどうだ？」と聞いた。スティーブンは、「こんなおんぼろ家なんかルノー邸じゃない。ワシントン D.C. はアメリカの首都だけにテロとか起きないかと心配なところある。だけどリンカーン記念堂の近くは穏やかで過去にテロがあったらしいけどテロ対策万全で問題ない」と言った。ソファに座るリチャードは、「そうか俺は２３年前に FBI の SWAT だった頃に、SWAT 格闘技トーナメントの試合が終わった直後に緊急事態が発生して、俺たちは輸送機に乗って、ロスのチャイナタウンへ向かっていった。中国人のテロ集団に立ち向かっていって、人質を持ってビルに立てこもったテロ集団と海軍基地に忍び込んで、戦闘機を乗っ取ったテロ集団と別れて動き出した。やつら中国人の人種差別問題に対して法を改正した内部文書を提出させるように交渉した。俺たちはビルの人質救助とテロ集団を抑えることに専念して、テロ集団を抑えて人質を助け出したはずだったが、ビルの爆破によってビルに残った人と救命士と SWAT の数名が犠牲者となった！ 残った俺たちはワシントン D.C. へ向っていったテロ集団を追ってワシントン D.C. へ向った。リンカーン記念塔に接触した戦闘機が墜落していた。リンカーン記念堂のリンカーン像の頭がミサイル弾で爆撃された近くでテロ集団と戦った！」と言った。スティーブンは、「へー！ そんなことがあったなんて一度も教えてくれなかったんだ？」と聞いた。リチャードは、「おまえに悪影響を与えては困ると思ってな！ マーシャルアーツ道場の後を継いでほしかったし危険な真似などはしてほしくなかった！ 宇宙飛行士になったがために宇宙人なんかと戦うことになっただろう」と答えた。スティーブンは、「そうか！ それよりもヒューマンレッドアイのすべてを消滅させた？」と聞いた。リチャードは、「まだいるらしいんだ！ おまえの乗ったスペースシャトルがサンディエゴ空軍基地に無事着陸した後で、NASA の施設のエドワード空軍基地に輸送されてエンジニアが点検中にシャトルに潜んでいたジークに襲われて感染していったようだ！ HRE ウィルス感染者らは次第にカルフォルニア州を全域に広まってきてる。いざというときのためにガトリング銃を持ち歩いてる」と答えた。スティーブンは、「この辺では安心していられない」と言った。リチャードは、「そう！ さっきの話の続きだが、中国人のテロ集団を抑えた後でルーシー母さんと出会って、２年の交際が続いて結婚して１年後におまえが生まれた。その２年の間で、またテロ事件が起きた。そのときに命を救ってくれたアレックス・ウッドという SWAT 隊員がいて、今のおまえに

似てるんだ！」と言った。スティーブンは、「自分に似てるなんて！ そのアレックスさんに会ってみたいな？」と聞いた。リチャードは、「もう会えないんだ！ 殉職したらしい！ その辺の経緯は何があったか知らない！」と答えた。キャメロンはリチャードに、「ねぇスティーブン兄さん！ おもしろいゲームがあるからやろうよ！ これっ！ おもしろいんだ！」と言った。リチャードはキャメロンに、「こらこら！ ピューナ！ 兄さんが帰ってきたからって、わがままばかりいうな！」と言った。キャメロンは、「もう私はピューナじゃない！ 地球人のキャメロンよ！ パピュラス星人じゃない！ だけど爬虫類みたいな肌は隠しきれない！」と言って自分の部屋に入っていった。ルーシーは、「夕飯の支度できた！ スティーブン！ キャメロンを呼んきて」と言った。スティーブンは、「よ！」と言ってキャメロンの部屋に入った。スティーブンはキャメロンに、「さっきのテレビゲームを一緒にやってやるから、夕飯の支度ができたんで食事を済ましてからにしよう」と言った。キャメロンは、「今は食欲がないんだよ！」と言った。スティーブンは、「まだ地球人になり切れないこと悩んでるの？ 大丈夫だって！ 俺がなんとかしてやるって！ だからキャメロン！ こい！」と聞いた。キャメロンは、「本当に心配だ！ わかった！ いくよ！」と言って自分の部屋から出て来た。家族みんな食卓に揃って会話をしながらマカロニグラタンとパスタなど食べてハーブティーを飲んだ。スティーブンはリチャードに、「俺はNASAのエイムズ研究センターでギルバート博士が、長年の実験で解放された時空転送の門をくぐることに決めたんだ！」と言った。リチャードは、「なんだそれ！ 宇宙の彼方へでも行くのか？」と聞いた。スティーブンは、「タイムトラベルして過去か未来に行けるものだ！ だけど宇宙に行けるルートがあるのかも知れないと思ってる」と答えた。リチャードは、「そうなのか！ ちゃんともとに場所と時間に戻ってこれるのか？」と聞いた。スティーブンは、「それが保証がなくて実験台となる身なんで戻ってこれるかわからない」と答えた。リチャードは、「危なかしい真似はやめておけ！」と言った。スティーブンは、「わかったよ！。遠い宇宙の銀河系の彼方へ地球と同じ惑星があるこ証明したいんだ！」と言った。リチャードは、「よしっ分かった！ 一度しかない人生！ いってこい！」と言った。スティーブンは、「どうも！ もう覚悟は決めたよ！ 明日また家を出る。あさって時空転送の門をくぐるつもりだよ！」と言った。キャメロンはスティーブンに、「えっ！ スティーブン兄さんどこか遠い時代にいっちゃうの心配だな！ 戻ってこれなくなるんじゃないの？」と聞いた。スティーブンは、「大丈夫だ！ 宇宙の彼方へいって、キャメロンを地球人と同じような体質にできる薬をもらってくるから！ みんな夕飯が終わったのでゲームしよう！」と言った。キャメロンは、「わかった！ 楽しみにしとくね！」と言った。スティーブンはキャメロンとゲームを終わらすとシャワーを浴びて自分の部屋に戻ってベッドの上に横になって、いつの間にか眠っていた。最後になるかわからない家族との一夜を過ごした。翌朝を目覚めたスティーブンは、ルーシーが朝飯を準備した食卓で朝飯を食べながらいると、みんな起きてきて、食卓に着いた。スティーブンはキャメロンに、「キャメロン！ おまえの実のお母さんであるゼジルは生きてるのかな？」と聞いた。キャメロンは、「どうしたことかゼジルは宇宙船ヅイスターが大爆発したときに倒れていた義理の弟のピューゴの側にいて、爆風に巻きこまれたかもしれない」と答えた。スティーブンは、「あの時はごめん！ 俺たちユースメンバーの一人だったジムがおまえの弟に遣られて撃つ手しかなかったんだ！」と言った。キャメ

ロンは、「理解してるよ！」と言った。スティーブンは、「ゼジルは『ヅイスターにいるピューナを助けてやってくれ！』と言っていた」と言って朝飯を食べてすぐにお出かけ準備をした。キャメロンはスティーブンに、「薬のお土産を待ってるから」と言った。リチャードはスティーブンに、「ちゃんと無事に戻ってこいよ！」と言った。ルーシーはスティーブンに、「どこかで昼飯はちゃんと食べなさい！」と言った。スティーブンは、「戻ってきたら、必ず顔を見せに帰ってくるよ！」と言ってルノー家を後にした。タクシーに乗ったスティーブンは空港までの途中で宇宙飛行士としてユースメンバーだったリリーを思い出した。スティーブンはヒューストン宇宙センター訓練生でいた頃に１９か二十歳の若さで宇宙飛行士に選ばれた初のユースチームなんだと胸の奥で思った。スティーブンは宇宙飛行士になるに経験を積んで若くして２６歳からだけど優秀と見なされてなった功績など偉大だったと思う。スティーブンはモバイルフォンでリリーに電話をかけた。リリーは電話を受けた。スティーブンはリリーに、「久しぶり！ スティーブンだ！ 元気だった？」と聞いた。リリーは、「元気よ！ スティーブンは元気？」と答えた。スティーブンは、「俺も元気だよ！ 今ワシントン D.C. にある本局で天体物理学者による講義を受けてる。なんでか宇宙飛行士としての仕事はないんだ！ そっちは？」と聞いた。リリーは、「私は今だにヒューストンのリンドン・B・ジョンソン宇宙センター訓練生としてやってるけど、いつか宇宙開発エンジニアのほうで宇宙開発技術者になろうとして頑張ってる」と答えた。スティーブンは、「いいですね！ 思い出したけど火星にいたときに俺たちが急いでシャトルに乗り込もうとしたらブライアンがジークに寄生されて HRE になってしまったときに襲いかかったブライアンをあえなく撃ったけど、そのジークが俺たちが乗って帰還したシャトルに潜んでいたらしくて点検中のエンジニアに寄生したそうだ！ そこから人々に寄生していった感染者の HRE はカルフォルニア全域に広がってるらしい」と言った。リリーは、「ヒューストンまではきてないけど、ヒューストンの降り立ったヅイスターにジークは生き残ってない。ヅイスターは大爆発して粉々になったから」と言った。スティーブンは、「それで競技場の修復はどうなってるんだ？」と聞いた。リリーは、「もう片付いてる。あとは修復を待つだけ」と答えた。「お互いブライアンとジムのぶんまで頑張ろうぜ！」と言った。リリーは、「わかった！ 同い年だから一緒に頑張ろう！」と言った。スティーブンは、「じゃあまたな！」と言って電話を切って空港に着いた。

遥かなる時空を越えた旅路

スティーブンはロサンゼルス国際空港からワシントンダレス国際空港にたどり着いた。スティーブンは昼飯を摂ってなかったから、空港内のハンバーガーレストランでパイン

を挟んだビーフバーガーとフライドポテトを食べて、パパイアジュースとグァバジュースを飲んだ。スティーブンは昼飯を済ましたら、タクシーに乗ってワシントン D.C. にある NASA の宿舎へ向った。NASA の宿舎に着いたスティーブンは自分の号室に戻ってベットの上で休まってたら、そのまま眠っていた。スティーブンは夜の 10 時に目が覚めて、シャワーを浴びてから冷蔵庫に冷やしていた冷たい水を飲んだ。ソーセージホットドックにケチャップとマスタードをかけて食べて冷たいレモンティーを飲んだ。スティーブンはテレビを付けてバックス・バニーのアニメが終わるとチャンネルを替えてニュース番組にした。TV アナウンサーは、「こんばんは！ 生中継でお届けいたしております。レポーターのケニー・ロペスです。カルフォルニア州北部で HRE ウィルス感染者が多発して直径２５センチのクモ型の火星寄生のジークがさまよって、人々に寄生して感染をもたらした目の赤い HRE をジークバスターズが火炎放射器を使って大半の HRE を減らしていった模様であります」と伝えた。スティーブンは、「LA 郊外のほうにまでまだきてないようだ！」と言ってテレビを消してから少し安心をするとそのままソファで二度寝した。翌朝起きたスティーブンは朝食でパンとスクランブルエッグとローストチキンとスウィートコーンを食べて水を飲んだ。しばらくしてスティーブンは晴天青空の太陽の昇る真昼どきに合わせようとエイムズ研究センターへ向かった。スティーブンはエイムズ研究センターに着いて、望遠鏡のある天文台の近くで宇宙物質を研究する科学者のギルバートと会った。スティーブンはギルバート博士に、「こんにちはギルバートさん約束の時がきました」と言った。ギルバート博士は、「準備はいいかね？」と聞いた。スティーブンは、「心の準備はできてます！ いつでもいきましょう」と答えた。ギルバート博士は、「では過去か未来かどっちにいくんだね？」と聞いた。スティーブンは、「過去ですよ！ あるテロ事件で父さんを助けたアレックス・ウッドという人物に会ってみたいんだよ！」と答えた。ギルバート博士は、「危なかしいぞ！ そんな紛争の起きた場所にいったら命の保証はないぞ！ それと時空転送の門をくぐってきたミラージュというラテン人でアラスカで下働きをしながら故郷のブラジルに帰ったと聞いたのだが、消息不明で訪ねても時空転送の門について聞くことができない。なのでその後の体の具合など知ることもできない。すでにこの世にいないかも知れない」と言った。スティーブンは、「問題ないかと思います」と言った。ギルバート博士は、「最後に説明しておくがタイムトラベルに向かう前にこのパネルを触れていって、いきたい先の年号を設定するのだ！ そして２０３５年４月３日の１２時２０分と設定して戻ってくるんだよ！」と言った。スティーブンは、「わかりました」と言った。ギルバート博士は、「もう一つあるよ！ 君がいっていた宇宙の彼方へ通じてる線は不可能じゃない。理論物理学者のアルベルト・アインシュタインが考え出した一般相対性理論でブラックホールから繋がるワームホールというトンネルを通り抜けたホワイトホールまでのワームホールをアインシュタインローゼン橋という負のエネルギーと出会えれば宇宙の彼方にたどり着いた。トンネルの中はエキゾチック物質によって通り抜けるまで寒さと重力で体が伸びてくるから重さ３０キロの特殊な宇宙服を着る必要がある」と言った。スティーブンは、「それは大変だ！ ワームホールのことは天文物理学者から教わってる。どうすれば負のエネルギーに会えるようになるだろう？」と聞いた。ギルバート博士は、「暗黒エネルギーで口が開いてるのを見つけることさ！」と答えた。ギルバート博士は、「アインシュタイン方程式で宇宙

は時空の塊のようなものであると考えている。スティーブンは、「ワームホールは宇宙の異なった時空連続体を短く遮断しているトンネルと聞いてます」と言った。ギルバート博士は、「なんどもいうようだけども数光年の彼方へいって、どこへいき着くかわからない。ここに戻ってこれるかわからない。それでもいくというのかね？」と聞いた。スティーブンは、「はい！」と答えた。ギルバート博士は天井のシャッターを開いて太陽の光が放った天文台の隅に設置した時空転送の門に太陽エネルギーを溜めて、三次元装置に年号日時を設定しようとした。ギルバート博士は、「それでは自分で年号と日時を設定したまえ！」と言った。スティーブンは２０１４年 4 月 3 日の１２時 20 分に設定した。スティーブンは、「場所は設定できないのですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「残念だがたどり着いたら２１年前のこの場所になる。若い頃の３７歳の私がいるだろう！」と答えた。スティーブンは、「若かれし頃のギルバートさんは驚くだろうな」と言った。ギルバート博士は、「過去の私にワームホールは実在すると伝えてくれ」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って、宇宙服を着て、「それではいってきます！」と言った。ギルバート博士は、「くれぐれもワームホールに出会ってしまったら慌てないようにしてくれ！」と言った。２０１４年 4 月 3 日の１２時 20 分にエイムズ研究センターの天井のシャッターの閉まった天文台で稲妻が放電し始めて時空転送の門が現れた。ギルバード博士は天文台の近くで実験をしていて驚いて実験台テーブルの下に隠れていた。ギルバート博士は時空転送の門から人が現れるのが見えてテーブルの下から立ち上がって、テーブルに置いてあったレーザー光線銃を手にして近づいてくる宇宙服を着た者にレーザー光線銃を向けて、「きさまは何者だ！」と聞いた。ヘルメットをはずしたスティーブンは、「俺の名はスティーブンという者です。２０３５年からやってきました。怪しい者じゃないですからね！」と答えた。ギルバート博士は、「なんだって！ 未来からタイムトラベルしてきたというのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうです！ 本来なら今から１年後に宇宙人が作った物と思われる時空転送の門がここに運ばれてくるはずです！ その後にギルバート博士は何年も実験をしても動かなくなった時空転送の門を起動させたんだ！」と答えた。レーザー光線銃を下ろしたギルバート博士は、「私の名前を知っているとは本当のようだな」と言った。スティーブンは、「はい！ ギルバート博士があの頃の私に会ったら、『ワームホールは実在すると伝えてくれ』と言ってました」と言った。ギルバート博士は、「そうか！ やはりタイムトラベルはアインシュタインが言っていた通り可能であるということは当たっていたか！」と言った。重さ３０キロの宇宙服を脱いだスティーブンは、「申し訳ないですけど、元の場所に戻る日が来るまで宇宙服を預かってもらえませんか？ それと時空転送の門と三次元装置を何かで隠して置いてくれませんか？」と聞いた。ギルバート博士は、「わかった！ このことは誰にも教えないでおく！ どこかにいくつもりか？」と答えた。スティーブンは、「父さんと母さんの挙式の１年前に父さんにどんなことがあったかを知りたい。若い頃の父さんのいる FBI の施設に行きます」と言った。ギルバート博士は、「ではしばらくの間は赤いドゥカティのスーパーバイク１１９９パニガーレを貸してやる。新車だから転倒させないでくれよ！」と言ってスティーブンにバイクの鍵を投げた。バイクの鍵を受け取ったスティーブンは、「ありがとうございます」と言って天文台から出てエイムズ研究センターから外へ出ていった。スティーブンは赤いドゥカティのイタリアンバイクに乗って、ヘルメッ

トを被って鍵をひねってエンジンをふかした。スティーブンは赤いドゥカティに乗って、FBI の本部を目掛けて突っ走ってった。スティーブンは連邦捜査局の FBI の本部に着いてエンジンを止めてヘルメットをはずして赤いドゥカティから降りたあと、さすがに警察機関である FBI 本部に簡単に入ることなんてできなかった。そこで考えたスティーブンは、リチャード父さんと会うために FBI のナショナルアカデミーを受験することにした。FBI の本部内に入ることを許可されたスティーブンは、受付で FBI アカデミーに志願した。赤いドゥカティに乗ったスティーブンはヴァージニア州のクワンティコにある FBI アカデミーへ向かっていった。FBI アカデミーにたどり着いたスティーブンは、早くも FBI アカデミーの入校の手続きを済ました。スティーブンは明日の受験に備えて近くのホテルで休んだ。受験当日に目覚めたスティーブンはホテルから向かった FBI の本部の FBI アカデミーで受験をした。３日間結果を待っていたスティーブンは見事に合格した。スティーブンは父の身元確認書を未来で偽造しておいたお陰で、今日から寮生活しながら２０週間の厳しい訓練に挑むことになった。初めて寮生活するスティーブンは NASA の宿舎なんかテレビも何もない狭い部屋で息苦しい夜を休んで朝起きた。訓練施設の FBI アカデミーで研修から始まって、全国から志願して集まった FBI アカデミー訓練生たち３０人の前にジョン・クウォーク長官が現れた。クウォーク長官は、「私が訓練指導者である教官のジョン・クウォークだ！ これからきさまらは過酷な２０週間の訓練に励んでもらうことになる。適性が見なされない場合には強制的に家に送り返すから、そのつもりでいろわかったな！」と言った。FBI アカデミー訓練生３０人は、「はい！」と言った。クウォーク長官は、「では最初にだ！ 心理交渉術を教える。テロ対策とスパイ工作と政府の汚職行為と強盗などのあらゆる事件現場は戦場だ！ 自分の身は自分で守れ！ やられたらやり返せ！ 自業自得の正当防衛だ！ だけども話し合いで済むことであれば交渉次第で解決することもある。心理交渉術は不公平な分配型と平等な統合型がある。この統合型を目指してほしいので心理交渉術のスペシャリストになってもらいたい」と言った。クウォーク長官は、「ここまでで何か質問がある者はいるか？」と聞いた。訓練生の一人は、「やられたらやり返せと言いましたが、過剰防衛してもいいのですか？」と答えた。クウォーク長官は、「タダの喧嘩じゃない限り命を狙われた場合はやむをえないだろう」と答えた。スティーブンは、「交渉人となるときは制圧者の要求に応じなければならないのですか？」と聞いた。クウォーク長官は、「そうだ！ 実際には制圧者の要求どおりという訳にはいかない！ 誘き出すことだ」と答えた。　クウォーク長官はスティーブンに、「生まれはどこだ？」と聞いた。スティーブンは、「カルフォルニア州の LA 郊外です」と答えた。クウォーク長官は、「スティーブン・ルノーと言ったが FBI の SWAT にリチャード・ルノーという者がいる。兄弟か親戚かな？」と聞いた。スティーブンは、「従兄弟です」と答えた。クウォーク長官は、「どおりで顔が似てるな」と言った。クウォーク長官は訓練生３０人に、「話の続きに戻る。警察が手に負えない事件が起きたときと誘拐が１日を経過したときに我々が出動する。そして指圧者が交渉に応じない場合には突撃を開始する」と言って講義が夕方まで続いた。クウォーク長官は、「明日は筋力トレーニングに山でランニングに訓練施設で筋力トレーニングと射撃訓練だ！」と言って講義が終わった。FBI アカデミーの寮に戻ったスティーブンは、帰る途中でコンビニに立ちよって買った食べ物と飲み物を食らった後でシャワー室にいっ

てシャワーを浴びて自分の部屋に戻ってしばらくしてベッドで沢山の本を読んでいると眠くなって眠りに就いた。朝起きたスティーブンは食パンを食べてミルクを飲んで訓練施設に向かった。訓練施設に着いたスティーブンは他の訓練生たちと一緒に山を走って登っていって、山道を走って下りていって、元の場所に着いて訓練施設へ戻っていった。訓練施設に着いた訓練生たちの全員は、鉄棒にぶら下がっての筋力トレーニングを始めて、両足を後ろに絡んで懸垂３セット１０回ずつして広背筋と上腕二頭筋と腹筋と体幹の筋肉を鍛えて慣れてきた者は重量ベストと重量ベルトを着用した。訓練生たちの全員は腕立て伏せと腹筋を１００回ずつやってから射撃訓練に入って建物の隙間と窓と扉から現れてくるギャングたちの看板をショットガンで撃つ訓練を５分間で一人ずつやらされた。訓練生たちの全員は射撃訓練が最後の一人が終わって FBI アカデミーの寮に戻っていった。クウォーク長官の厳しい訓練指導を受けていたお陰で訓練生たち３０人中の５人が脱落した。訓練生たちの２５人は同じことを毎日繰り返して１０週間過ぎて、訓練生たち２５人中の７人が脱落した。訓練生たちの１８人は山のランニングじゃなくて、輸送機からパラシュートで降りる訓練と訓練施設で鉄棒を使った筋力トレーニングは、そのまま続けて射撃訓練が狙撃訓練に変えた。残った訓練生たちの全員は輸送機に乗って訓練施設で落下練習した通りに低空３００メートルの上から一人ずつ飛び降りて背中に背負ったパラシュートを開いて地上に着陸していった。訓練施設で筋力トレーニングを始めて鉄棒にぶら下がってから懸垂３セット１０回ずつした後で腕立て伏せと腹筋１００回ずつやった後で狙撃訓練に入って１５０メートル先の５階建ての建物の屋上にある狙撃犯の看板を狙撃用ライフル銃の標的で見つけ出して撃つ訓練を５分で一人ずつやらされた。訓練生たちの１８人は毎日の同じこと繰り返し２０週間が経とうとしたときに訓練生たちの１８人中９人が脱落した。訓練生たち９人は最終日に森林でサバイバルゲームすることになった。クウォーク長官は最終日まで残った訓練生たちの９人にサバイバルゲームを始める前に自己紹介をさせた。まず一人目はシャイで繊細なジョン・エドワーズと二人目はシシリアンで女子好きなフランク・バトラーと３人目はおっちょこちょいで陽気なドナルド・ダニエルズと４人目は敏腕の狙撃者イーサン・モリスと５人目は黒人でダンスが好きなルーカス・ロングと６人目は正義感が強くて真面目なパトリック・エリオットと７人目は唯一の女性の訓練生で小柄なエミリー・シャーロットと８人目は韓国系でテコンドーが得意なトニー・チョイと９人目はマーシャルアーツが得意なスティーブンといった顔ぶれである。クウォーク長官は訓練生たち９人を自己紹介させた後で５体５に振り分けるのために足りないひとりをリーダーシップの取れる FBI アカデミー卒業生で優秀なアレックス・ウッドを女戦士のいる側につけた。驚いたスティーブンは、「あれがアレックス・ウッド！ 俺とまったく似てないぞ！」と呟いた。クウォーク長官はスティーブンとイーサンとドナルドとパトリックとルーカスの５人とアレックスとジョンとフランクとエミリーとトニーの５人に振り分けた。クウォーク長官は訓練生たちの９人に SWAT のユニホームと防弾チョッキと保護用メガネを支給した。SWAT のユニホームなどを受け取った訓練生たち 9 人は、訓練施設のロッカー室で SWAT ユニホームセットに着替えて森林の所定場所に集まった。クウォーク長官は訓練生たちの９人に標的付のライフル銃と人体に死傷のないライフル用ゴム弾１０発を渡した。そしてクウォーク長官は赤チームの班長をパトリックにして、青チームの班長をアレックスに

した。クウォーク長官は、「ゴム弾が当たった衝撃で失神して倒れたり、その場で手を挙げて堪忍したら負けだ」とルールを言い渡した。いよいよ訓練生たちの９人にサバイバルゲームを開始させた。訓練生たちの９人は赤チーム VS 青チームで赤チームを南側へ青チームを北側へ森林を散らばした。パトリックはイーサンに、「この茂みの中で青チームを狙撃しろ！」と言った。スティーブンとドナルドに、「東に回れ！」と言った。「ルーカスと俺は西に回るよ！」と言って二手に分かれた。アレックスは、「きっと赤チームは東側からも西側からも挟み撃ちにくるぞ！」と言ってジョンとフランクとエミリーとトニーを進ませた。イーサンは茂みに隠れて前から人影が見えたのでライフル銃の標準を合わして、ジョンの胸を撃った。ジョンが撃たれた衝撃で青チームは地面に伏せた。銃声を聞いたスティーブンとドナルドとパトリックとルーカスは分かれた地点へ進んいった。アレックスとフランクとエミリーとトニーは立ち上がると走って後退していった。イーサンは照準を合わしてフランクの背中を撃ったらフランクが気絶してずっこけて倒れた。パトリックとルーカスとスティーブンとドナルドはトニーとエミリーとアレックスたちとぶつかって、赤チーム VS 青チームでお互いにライフル銃を向け合った。トニーは沈黙の中でパトリックの持ったライフル銃を蹴飛ばしてライフル銃でパトリックの腹を撃ったら、パトリックが気絶をして倒れた。気を取られた赤チームと青チームは、お互いが撃てずにライフル銃を下ろして隙を見て散らばっていった。スティーブンはとんまな道化師のドナルドを連れて斜面を降り立ってルーカスが前を突っ走って、茂みに隠れてるイーサンの場所を横切っていって、イーサンは不安になって立ち上がって茂みから離れていった。エミリーは後から向かったルーカスに、「ライフル銃を捨てて、手を挙げろ！」と言った。エミリーはルーカスが振り向いてライフル銃で撃とうとした瞬間にルーカスの肩を撃ってルーカスは気絶して倒れた。アレックスは茂みに隠れて狙撃していたイーサンの裏を回って、探し出した。アレックスは銃を構えてイーサンが来るのを先回りしてサイドからイーサンの足を撃って足を引きずって歩いてるイーサンの背中を撃つと、イーサンは気絶してうつむいて倒れた。スティーブンとドナルドはトニーとばったり出会って互いにライフル銃を向けようとしたが、ライフル銃を奪いあった。トニーを後ろから支えてる間に自分のライフル銃を手放してスティーブンが両手でトニーのライフル銃を奪い取ろうとしたときにトニーが肘でドナルドの顔面を打って解き放してスティーブンの脇腹を蹴っていったが、スティーブンにライフル銃を奪われて腕を取られて一本背負い投げで地面に投げられてすぐに後ろから片羽絞（ かたはじめ ）の抑込技を受けた。トニーはスティーブンの顔を蹴って絞め技を解き放してスティーブンの腕を取って腕ひしぎ十字固の関節技をかけた。スティーブンはトニーの足を噛みついて解き放して、お互いが立ち上がって、トニーが足技で前蹴りして後ろ蹴りして前回し蹴りして後ろ回し蹴りしてくるたびに防いでいたが、トニーの足の甲で腹を溝打ちされて倒れた。トニーはスティーブンが腹を抑えながら立ち上がって地面に落ちてるライフル銃で撃とうとしたときにドナルドに背後から背中を撃たれて気絶して倒れた。ドナルドに救われたスティーブンはアレックスとエミリーを追ってった。エミリーを見つけたスティーブンはエミリーに、「お嬢さん！ 意外と女らしいお尻してるのね！」と言って侮（ あなど ）ったエミリーの背中を撃って、エミリーが気絶して倒れた。木の側にいるドナルドを見つけ出したアレックスはドナルドに、「ライフル銃を捨てて、手を挙げろ！ 手を

挙げないと撃つぞ！」と言って木の上に登って隠れていたスティーブンがアレックスの胸を撃って、アレックスは気絶して倒れた。スティーブンとドナルドは最後まで残って赤チームが勝利した。気絶して倒れていた訓練生たちは目を覚まし始めて所定の場所に戻ってきた。アレックスが目を覚ましたスティーブンとドナルドは所定場所にアレックスを両脇で支えるようにして肩を組んだ。クウォーク長官は、「みんな手を挙げなかったのは勇敢で非常によろしいことだ！ 肝心なのは知恵や感が優れたりすることよりもみんなで協力しあうことだ！ 実践の場で役立ててくれ！」と言って訓練を終了させた。訓練生９人は後日卒業式を終えて、いつも一緒に食事をしなかった訓練施設の食堂室にデリバリで頼んだピザを食べてドリンクを飲んで卒業パーティーをして盛り上がった。訓練生の９人はそれぞれがアカデミーの寮に戻って毎日の訓練で鍛えた筋肉痛の体を癒した。

汚れた報酬と復讐の行方

アカデミー訓練生の９人はクウォーク長官に見込まれて無事に卒業して訓練施設からそれぞれの部署へ配属された。ジョンとフランクとエミリーとルーカスは FBI 捜査官にパトリックとスティーブンとドナルドとイーサンとトニーはアレックスと同じ SWAT 特殊部隊に抜擢された。ジョンとフランクとエミリーとルーカスは３ヶ月間あらゆる犯罪学と護身術と法律と推理を学んだのちに FBI のエリート集団の刑事とサイバー対策部の下部組織の行動分析課 (BAU) から始まる事になった。スティーブンとドナルドとトニーとイーサンは１ヶ月間あらゆる犯罪学と法律を学んだのちに S.W.A.T に入隊してイーサンは狙撃のプロフェッショナルとして S.W.A.T 特別狙撃隊に送られた。SWAT 特殊部隊はなんども M4 カービンのアサルト小銃と盾を持って陸軍施設で捜索訓練した。世界銀行本部に強盗団が押し入って緊急事態発生した。ワシントン D.C. にある世界銀行の本部へと SWAT 特殊部隊が派遣された。強盗団は占拠した世界銀行の本部で世界銀行の職員たちを人質にして、髭のおじさんのお面を被って身を隠している。強盗団のリーダーは、モバイルフォンでインスタグラムのライブ配信を使ってローガン大統領に貧困な途上国の中国に巨額の融資を要求して世間を騒がした。中国に商業融資の低金利４パーセントと援助融資６００億ドルを受けて経済は急成長して日本を抜いて世界で２位になったが、２０１４年に香港で中東呼吸器症候群（ MARS ）が大流行したために世界の国々に感染者が広がって、特にアメリカの感染者が多いことで発展のために援助資金を停めた。中国政府は中国の責任あると批評したローガン大統領にサウジアラビアの首都リヤドから香港に海外出張でやってきたロシア人がヒトコブラクダから感染した MARS コロナウィルスを持ち込んできたからで MARS コロナウィルス感染病を広めたのはサウジアラビア

で中国じゃないとアメリカ政府に訴えた。ホワイトハウスにいるローガン大統領はTVニュースの緊急生中継で、「巨額の援助融資を支援してきたのに、香港からヨーロッパにアメリカに広まってアメリカでMARSコロナウィルス感染病が拡大したことは中国政府が対策を取らなかったためにあるので援助融資の要求は断る」と言った。SWAT特殊部隊の隊長は強盗団のリーダーに、「この要求を応じることはできない！ 会議室のテレビニュースを見ろ！」と強盗団のリーダーのインスタグラムのライブ配信にメッセージを入れて交渉したが、交渉を無視したために世界銀行の本部に突入することにした。ローガン大統領の抗議するTVニュースを見た強盗団のリーダーは、「要求を応じないなら職員を一人ずつ殺していくぞ！」とインスタグラムのライブ中継で言った。警官隊に包囲された世界銀行の本部の入口の扉を破城槌（ はじょうつい ）で破壊して、アサルト小銃と盾を持ったSWAT特殊部隊が突入し始めた。世界銀行の本部の向かい側ビル５階の部屋の窓を開けてSWAT狙撃隊が待機した。ウッド隊長は無線機でSWAT狙撃隊のイーサンに、「世界銀行の本部の中に強盗団が何人いて、人質の職員が何人いる？」と聞いた。イーサンはウッド隊長に、「会議室に強盗団５人で人質の職員３０人います」と答えた。ウッド隊長は、「よしっ！ わかった」と言って、「他の職員はうまく外へ逃げ出したようだな！」と言った。ウッド隊長はSWAT部隊に、「会議室に強盗団が５人にいる。通路側に強盗団が何人かいるかも知れない！ 警戒しろ！」と言って会議室へ向かっていった。SWAT部隊は非常階段まで通路を伝っていくと、強盗団の４人がショットガンでSWAT部隊に撃ってきた。SWAT部隊は強盗団の３人にアサルト小銃で撃っていって、物陰に隠れたSWAT部隊のスティーブンが強盗団の４人に発煙手榴弾を投げて煙を巻き始めて強盗団の二人を撃って片付けたが、強盗団の一人は走っていって、非常階段を使って会議室がある３階まで上っていった。ウッド隊長はイーサンに、「すぐに会議室にいる強盗団の５人を撃つんだ！」と命じた。イーサンは、「了解しました」と言って周りのSWAT狙撃隊に伝達して合図をしたら、一斉に撃つことにした。SWAT狙撃隊は人質の職員３０人にショットガンを向けた強盗団の５人に狙撃銃の標準を合わしてイーサンの掛け声で一斉に狙撃銃で撃っていった。強盗団の５人のうちの３人が命中してイーサンが的をはずした強盗団の一人を撃って命中したが、そのとき強盗団の一人が会議室に現れて気を惑わされて強盗団のリーダーを撃てなかった。強盗団のリーダーは職員の女性に会議室の窓のシャッターを下ろさせた。強盗団のリーダーと強盗団の一人は会議室で人質の職員３０人にショットガンを向けて再び立てこもった。戸惑ってきたウッド隊長はBAUのエミリーにモバイルフォンを使って髭のおじさんのお面を被った強盗団の情報関連を聞いた。BAUのエミリーはウッド隊長に、「BAUのエミリーですが、強盗団は中国系で（ 巷 ）ちまたの銀行で強盗を繰り返してきた集団で中国政府と一切関係ない可哀想なゴロツキね！ 恐らく２年半前にLAチャイナタウンで起きた過激派の一味と思われる」とモバイルフォンで情報を送った。会議室で強盗団のリーダーは人質の職員３０人に、「おまえたちの中に支店長はいないのか？ 答えないとみんな撃っていくぞ！」と言った。人質の職員３０人の中で誰も名乗り出ないでいると人質の職員の男性が強盗団のリーダーを後ろから押さえ付けたが人質の職員の男性は強盗団のリーダーに肘で顔を打たれて払われて撃たれて倒れた。人質の職員の男性が強盗団の一人を後ろから押さえようとしたが、人質の職員の男性は強盗団の一人にショットガンのグリップで頭を殴られて横た

わった。静まり返った会議室で強盗団のリーダーは、「名乗り出てこないようなら犠牲者が増えることになる」と言って人質の職員２９人から支店長が現れた。　強盗団のリーダーは支店長に、「これはお会いできて光栄です！ 金庫室はどこにある？ 世界銀行の香港支店に融資６００億ドルを今まで通りに送金しろ！」と言った。支店長は、「普通の銀行と違うから金庫室などない。私たちは途上国の貧困削減を開発支援してきた。国際開発協会（ IDA ）は中国に援助融資を支援し過ぎてる。ローガン大統領に背いて、国際復興開発銀行（ IBRD ）に相談してみる。その代わり職員に手を出さないでくれ！」と言った。強盗団のリーダーは、「わかった！ もし嘘ついたら職員２９人の命はない。今すぐＩに BRD に連絡しろ！」と言った。モバイルフォンを持ち出した支店長は、「騒動が起きたために IBRD の支店長がいるかどうかわからない」と言った。強盗団のリーダーは、「早く電話してここへ呼び出せ！」と言った。電話で呼び出した支店長は IBRD の支店長に、「私は IDA の支店長ですが、あなたは本部におられますか？」と聞いた。IBRD の支店長は、「IBRD の職員の皆と窓や非常出口から逃げ出してからそこにはいない」と答えた。IDA の支店長は、「私の部下２９人の命がかかっている。今から本部の会議室に来てほしい」と聞いた。IBRD の職員は、「わかった！」と言ってやむ終えず本部へ向かった。何かを警戒した強盗団のリーダーは、ショットガンを床に捨てて、連射式ショットガンに切り替えた。強盗団のリーダーは人質の職員２９人に、「おまえたち中で妙な真似をする者がいたら容赦なく撃っていくぞ！ わかったか！」と言って人質の職員２９人に連射式ショットガンを向けた。IBRD の支店長は世界銀行本部にやってきて、世界銀行の本部の周りにいる SWAT 部隊の中を通り抜けていった。IBRD の支店長は世界銀行の本部の入り口に入ってきたときに情報を受けてトランシーバーで SWAT 部隊に、「IBRD の支店長を通せ！」と許可したウッド隊長が現れた。ウッド隊長は IBRD の支店長に、「会議室にいく？ やつら援助融資を実施した後で皆殺しをしてずらかるだけです。私に名案があります。協力を願います」と言った。スティーブンとトニーはウッド隊長が考えた囮り作戦のためにスーツを着てメガネを掛けて IBRD の職員に扮して、IBRD の支店長と会議室へ向かった。IBRD の支店長はスティーブンとトニーを連れて会議室に入っていった。強盗団のリーダーは IBRD の支店長に銃を向けて、「その二人は誰だ？」と聞いた。IBRD の支店長は、「私の部下ですよ！ パソコンを使って色々とサポートしてくれます」と答えた。強盗団のリーダーは、「誰が部下まで連れてこいと頼んだ！」と言った後で、強盗団の一人に、「その二人の持ち物を確認しろ！」と言ってスティーブンとトニーのポケットに何かないか調べさせた。強盗団の一人は強盗団のリーダーに、「了解!」と言った後で、IBRD の支店長の付き人のスティーブンとトニーにパソコンで香港支店に融資６００億ドルを送金させるように命じた。スティーブンはデータ保存された SD カードを取り出してパソコンに差し込んだ。人質の職員の黒人男性はトニーに屋内の床のショットガンがあることを目で合図した。パソコンの画面を見た強盗団のリーダーはスティーブンに、「なんだそれは？」と聞いた。スティーブンは、「YouTube でよく見る猫ちゃん動画です」と答えた。強盗団のリーダーは、「ふざけやがって！」と言って連射式ショットガンをスティーブンに向けたときにスティーブンが強盗団のリーダーの連射式ショットガンを押さえて上に向けた。トニーは床のショットガンを拾って、強盗団の一人がショットガンでトニーを撃とうとしたときに、強盗団の一人のショットガンを

蹴り飛ばして、強盗団の一人を撃って倒した。トニーは強盗団の一人が手放したショットガンを手にして、スティーブンと争ってる強盗団のリーダーにショットガンを向けた。強盗団のリーダーに振り払われたスティーブンは連射式ショットガンで撃たれようとしたときに、「待て！」と言ってトニーがショットガンで撃とうとして強盗団のリーダーは手を止めた。トニーは強盗団のリーダーに、「手に持った連射式ショットガンを床に下ろせ！」と言った。強盗団のリーダーは連射式ショットガンを床に投げ落とした。その間スティーブンは人質の職員３０人を会議室から解放させた。大統領のお面をはずした強盗団のリーダーは、「やっぱり SWAT 部隊かよ！ よくも俺を騙したな！ タダじゃすまない！」と言った。トニーは、「おまえはもう袋のネズミだ！」と言った。スティーブンは床にある連射式ショットガンを拾おうとしたときに強盗団のリーダーがトニーが向けた銃を蹴り飛ばして、トニーの横腹を蹴ってスティーブンの腹を蹴って床に投げ落とした連射式ショットガンを拾って、スティーブンとトニーに連射式ショットガンを向けたが、その時に会議室に入ってきて、ショットガンで撃ってこようした SWAT 部隊を片っ端に撃っていって、会議室から外へ出ていった。強盗団のリーダーは非常階段へ走っていった非常階段で屋上へ上がっていった屋上の扉をノブを撃って破錠して扉を開いて入った。強盗団のリーダーは屋上の物陰に隠れてモバイルフォンで仲間に電話してヘリの援護を頼んだ。SWAT 部隊と警官隊は屋上に駆け付けると、強盗団のリーダーを見つけ出して、「銃を下ろして、速やかに出てくるのなら撃たない」と言った。屋上に援護のヘリがやってきて、ヘリからマシンガンで SWAT 部隊を撃っていった。マシンガンの弾が切れて、ヘリが屋上のヘリポートマークに着地して、ヘリからショットガンを持った強盗団の３人が現れた。強盗団３人は強盗団のリーダーを見つけて強盗団のリーダーを援護しながらヘリに向かった。強盗団のリーダーと３人はヘリの近くにやってきて、アサルト小銃で撃ってくる SWAT 部隊と撃ち合った。SWAT 部隊に強盗団の 2 人が撃たれて、強盗団のリーダーを盾にした強盗団の一人が撃たれて倒れた。SWAT 部隊と撃ち合いながら、ヘリに乗り込んで操縦士にヘリを発進させた。ヘリが離陸し始めたときに世界銀行の向かい側のビルに待機してるイーサンが操縦士に狙撃銃の標準を合わした狙撃銃の弾が操縦士の頭に充たった。強盗団のリーダーは連射ショットガンを捨て、ヘリから１０メートル下に飛び降りて脱出した。ヘリは回転しながら急降下して爆発した。スティーブンとトニーは立ち上がった強盗団のリーダーに銃口を向けた。スティーブンは強盗団のリーダーに、「おまえは何者だ？ なんのためにそんな真似をしているんだ？」と聞いた。強盗団のリーダーは、「俺は２年半前に演説中のウィルソン州知事を暗殺しようとしたチャン・ウーの息子ムーヤン・ウーだ！ そして兄はエリート高校でカナダ人留学生に拳銃乱射事件を起こして終身刑を食らったイーハン・ウーだ！ 悪いことしたとはゆえに警官に父と兄弟が重い刑に処された。最初から先祖のいる中国に援助融資が止まったからでない。一部の警官に復讐をしたかった！」と答えた。スティーブンはムーヤンに、「おまえの父と兄は中国人の誇りを傷つけられてしてしまった！ だけど警官隊はやむをえずに抑えなければならなかった！」と言った。ムーヤンは、「俺は何人もの人を犠牲にしたんだ！ 刑務所にいって、処刑されるだけだ！」と言った。トニーは、「もう標的の的だ！ おまえは逃げられない」と言った。ムーヤンは、「俺はいかない」と言った。スティーブンは、「なら腕ずくでも連れていく！」と言って銃を捨ててトニー

も銃を捨てた。スティーブンはトニーに、「こいつは手強いぞ！ 油断するな！」と言って、マーシャルアーツでムーヤンにかかっていって、トニーもテコンドーでムーヤンにかかっていった。二人がかりで血迷うムーヤンは、仙鶴拳でスティーブンとトニーの攻撃を避けていったが、トニーはムーヤンに前蹴りして後ろ蹴りして前回し蹴りして後ろ回し蹴りしていった。ムーヤンの鶴の拳でかわされて、掴まれた足を肘で打たれて横たわった。スティーブンはムーヤンに左の肩を持たれて左の拳で腹を３回打って顔を打った。痛々しいムーヤンは鶴の形で片足で立ってハイキックしようとしたスティーブンの顔を蹴り上げて気絶させた。立ち上がったトニーはムーヤンに手技で打っていったが、かわされて足刀で蹴っていって、ムーヤンの腹を打って倒れかかったが、トニーは膝がついたムーヤンにトドメを刺そうと、踵落としししようとしたときに、舞鶴となったムーヤンが鶴の拳でトニーの踵落としを防いでトニーの身体を鶴の嘴（ くちばし ）の拳を右に左に突いていって、顔を連発で突いていって、振り飛ばして気絶させた。ムーヤンはスティーブンの銃を拾ってスティーブンに銃を向けて撃とうとした。目覚めたスティーブンはムーヤンに、「やめろ！ ムーヤン！ そんなことをしてたら、その辺のゴロツキと同じになる。おまえは今までの銀行強盗で盗んだ金と警官殺し未遂について聞きたいことがある。復讐の念があってなら法廷に立って裁判官と陪審員に無実を照明してみろ！濡れ衣を被されたままくたばる気か！」と言った。ムーヤンは、「うるさい！ 口ほどにもないまぬけたちだ！」と言って銃の引き金を引こうとしたときに向かい側のビルに待機していたイーサンがムーヤンの頭に標準を合わした狙撃銃で撃った１発の弾丸が頭に命中してムーヤンを倒した。ムーヤンはズボンのポケットからモバイルフォンが見えた。スティーブンはそのモバイルフォンを拾って見たら時限爆弾らしきアプリにスタートボタンが押されてる。あと５分を切ってカウントしていることに気がついた。スティーブンは、「トニー！ 目を覚ませ！」と言ってトニーの目覚ました。スティーブンはトニーとSWAT 部隊と警官隊に、「みんな逃げろ！ 銀行のどこかに時限爆弾を仕掛けられてる！そこから離れるんだ！」と言って全員を避難させた。スティーブンとトニーと SWAT 部隊と警官隊は非常階段を急いで下りていって、世界銀行の本部の入口から外に出た瞬間に会議室が大爆発した。スティーブンとトニーと SWAT 部隊と警官隊は世界銀行本部から無事に外へ出ていった。SWAT 部隊と警官隊には負傷者が出たが、ヘルメットと防弾チョッキを着用していたお陰でほとんど一命を遂げた。MARS コロナウィルス感染症はアメリカの次に韓国で流行って、オーストラリアの研究所ではアルパカから抗体を採取した MARS コロナウィルスの撃退に効果のあるワクチンを開発してアメリカと韓国に送られて大量のワクチンで感染者が減少した。

ローガン大統領の救出作戦

ワシントン D.C. の FBI の宿舎でリチャードは SWAT 隊員の仲間たちを自分の部屋に呼んで今年と去年の SWAT 異種格闘技大会トーナメントの模様を録画した DVD をプレーヤーに入れてテレビで見ていた。毎年４月にアメリカ各州の警察と FBI から集まった SWAT の武術のエキスパートたちがアトランタ市ジョージア州立体育館で行われる腕試し競い合うトーナメントに賭けた予選でリチャードが出場権を得て今年のトーナメントに参加した。８人の武術のエキスパートは４ブロックに別れて戦って、準決勝で２ブロックに別れて戦った。決勝でリチャードとロス市警リトルトーキョー SWAT の日系で合気道を得意とするレオナルド・タケダと戦った。拳法と空手と柔道の東洋格闘技マーシャルアーツ（ 武芸 ）でリチャードはレオナルドの顔にパンチと蹴り技でキックをしたが、避けられたレオナルドに固技で腕を背中の後ろに固められて顔面を蹴られた。ポイントを取られて危うしのリチャードは、レオナルドの顔に再びパンチしていって打てずにいたが、ハイキックでレオナルドの顔面を蹴った。ポイントが同点となったと気が抜けたリチャードは、気合を入れて顔に腹に右に左にパンチしたが、レオナルドに両腕を取られて合気道の四方投げで投げられて手刀打ちで腹を打たれて一本取られた。リチャードは残念がって SWAT 隊員の仲間たちに、「去年のトーナメントはロバートの約束したとおり勝ったんだ！」と言ってプレーヤーを再生した。リチャードは準決勝まで勝ち抜いていった決勝戦でデトロイト警察 SWAT の総合格闘技のロジャー・アンダーソンと戦った。ロジャーはリチャードに右からローキックと左からハイキックしていたが、腕で払らわれていって、リチャードを掴んで投げ技で投げて腕を取って関節技で迫ったがリチャードに両足で顔を掴まれて頭を殴られて解き放した。リチャードはロジャーが左に右にパンチしてきたが、腕で防いで右の拳で腹に強パンチして一本取れた。ロバートとの約束を果たしたリチャードは SWAT 異種格闘技大会トーナメントの優勝トロフィーを博した。SWAT 隊員の仲間たちはリチャードの部屋から離れて各自の部屋へ戻っていった。スティーブンはまだリチャードと同じ宿舎どこの部屋にいるかわからないままで過ごした。１０年前、韓国でバーが赤と青のくるくると回る床屋でロシアンマフィアでロシアのスラヴ民族のグリゴリー・サドルノフは中年男で理髪師のリ・ロイに、「短めに頼む」と頼んだ。リは、「かしこまりました」と言ってグリゴリーの髪を切っていった。髪を切り終えたリは、「お客さん女子好きですか？」と聞いた。グリゴリーは、「もちろんだ！」と答えた。リは、「いい女のいる店を紹介しますよ！」と言った。グリゴリーは、「お願いする」と言った。リは、「畏まりました。後で詳しい情報を！」と言ってグリゴリーの髪を洗い始めた。髪を洗いながらリは、「お客さん！ どんな女性が好みですか？」と聞いた。グリゴリーは、「グラマーな女がいい」と答えた。リはグリゴリー髪を洗い終えると、ドライヤーで乾かしてから整いた後でグリゴリーにレジの精算時に風俗の行

き先の解る地図を渡した。グリゴリーは風俗案内所のような床屋から外に出た。グリゴリーはリのいうとおりにハングル語で書かれた風俗の行き先の解る地図を見て、ソウル市のカンナムエリアを訪れて高級クラブの店に入っていった。グリゴリーはお店に入ったら、案内人に接待されて四段に並んで座ってるランジェリを身につけたＳ級韓国女性のいる間に来てソファに腰をかけた。源氏名のキム・ミナを指名したグリゴリーはウイスキー水割りを飲みながらキムの準備次第でこっちに来るのを待っていたが、そのうちにキムがソファの隣に座ってきた。キムはグリゴリーに、「いらっしゃいませ！ はじめましてキムです」と言った。グリゴリーは、「俺はスラヴ系ロシア人だがアメリカで移住している」と言った。キムは、「だったらアメリカ人ですか？」と聞いた。グリゴリーは、「そうだ！ アメリカ国籍はない」と答えた。キムは、「どうして移住できたの？」と聞いた。グリゴリーは、「不法滞在してる。アメリカにいる友達（ ダチ ）のお陰で、作られた偽造パスポートをロシアのスラヴ民族の孤児院の俺宛に送ってきたんだよ！ そのダチはロシアンマフィアで俺を隠れ家で保護してくれた。俺はスラヴ民族の孤児院を勝手に離れてアメリカへ渡って生きていく道がなかった俺が保護してもらう代わりロシアンマフィアの組織に入った！」と答えた。キムは、「私も孤児院で育ったの！ 危なかしい男は好き！」言った。グリゴリーは、「どこまで許される？」と聞いた。キムは、「本番まで大丈夫」と答えた。キムはグリゴリーを裏の個室に連れていった。グリゴリーはキムのラズベリー色のランジェリを脱がし始めてると胸の上辺りに不死鳥のタトゥーが見えた。グリゴリーは洋服を脱ごうとしたときに韓国警察が個室の扉を開けて人身売買の風営法違反のお店として摘発にやってきた。この店にはカンナムエリアの高級クラブのほとんどが買われた孤児の韓国少女ばかり集められていた。韓国警察は未成年者のいる店の案内人と客を検挙して、孤児の韓国少女らが保護された。グリゴリーは韓国警察に収容されて取調室で偽造パスポートがバレて身分を明かした。グリゴリーはロシアンマフィアのダチでヴィンセント・ウォーカーと連んでニューヨークに住むスミス家にピザ屋のデリバリに扮して届け出に入り、ご主人を拳銃で撃って殺害して強盗に押し入り、奥さんと子供たちを撃って殺害した。グリゴリーとヴィンセントは貴金属と金具で叩いて破壊した金庫の中から１０万ドルを奪って、車で逃走していった。ニューヨーク郊外にある寂（ さび ）れた街のオートリーシティに隠れ家を置いたグリゴリーとヴィンセントは、FBI の国際捜査班にヴィンセントだけが住民に顔を知られていたためにグリゴリーはヴィンセントと分かれて隠れ家を離れて、身分を知られないうちに偽造パスポートで飛行機に乗って韓国へ逃亡して身を隠した。グリゴリーは韓国にまでやってきた FBI の国際捜査班によって凶悪犯たちが収容される監獄島のアルカトラズに護送さられた。グリゴリーはスミス家を殺害したときに使われた拳銃の弾がグリゴリーの持っていたトカレフ TT33 の旧ソ連の軍用自動拳銃の弾と一致したためにヴィンセントと共犯者だったと捜査された。ヴィンセントの隠れ家を知った FBI の国際捜査班は行方をくらましたヴィンセントが賑やかなクラブで女とダンスしているのを見て近づいていくと、ヴィンセントがクラブの外へ出ていって、車で逃走した。FBI の国際捜査班は車で追っていって、ハイウェイをカーチェイスしてヴィンセントが乗った逃走車のタイヤに向けて拳銃の弾を放っていった。ヴィンセントの乗った逃走車はタイヤが破れて５回も横転した。ヴィンセントは運転席で頭から血塗（ ちまみ ）れになって倒れていた。ヴィン

セントの持った銃の弾はスミス家強盗殺人事件の時の物と同じだった銃を共同で使ったと思えるグリゴリーの指紋があったからだった。グリゴリーは獄舎で終身刑を受けてたびたび囚人との間でいざこざが絶え間ない日々を過ごしていた。１０年後、事故で意識不明だったヴィンセントは病院に送られて植物状態のまま１０年が経ったが、フランス人の外科医がある装置を脳部に埋め込んで迷走神経に電気を流し込む刺激療法を毎日のように行い続けて昏睡状態から意識を取り戻した。ヴィンセントは長い植物状態から回復して夜にグリゴリーのことを思い出して覚醒した。ヴィンセントは病院の治療室がセキュリティーシステムで開けることができなかったので誰かが来るまで待った。フランス人の外科医がIDカードをかざして治療室のドアを開いて中に入ってきた。フランス人の外科医はヴィンセントに、「話せるのか？ 手足を動かせるのか？」と尋ねた。ヴィンセントは、「あっ！ 奇跡としか思えない」と言って、「なぜ俺を助けたんだ？」と聞いた。うなずくフランス人の外科医は、「私はあなたに脳科学の実験をさせてもらってたんだから感謝させてもらいたいところだ！」と答えた。ヴィンセントは、「俺はある男の情報が知りたくて、ここを出たい。出してくれ？」と聞いた。フランス人の外科医は、「それはできない！ あなたは殺人犯だから危険なので話もできて両手両足が動くようなら明日にでも警察に引き渡すつもりでいる」と答えた。ヴィンセントはフランス人の外科医を掴んで逃げようとすると、フランス人の外科医の首を背後から両腕で絞めつけて、「命の恩人だと思ったが、それじゃ死んでたほうがマシだ！」と言ってフランス人の外科医の首を絞めて息の根を止めた。ヴィンセントは横たわったフランス人の外科医のドクターコートの内ポケットからIDカードを奪って、治療室のドアを開いて外へ出ていった。ヴィンセントは病棟の警備員に見つからぬようにして深夜の病院から抜け出していった。ヴィンセントはニューヨークダウンタウン病院の外科を出て来て、ワシントンスクエア公園に向かった。ワシントンスクエア公園に着いたヴィンセントは、公園にモバイルフォンで電話している壮年男が立っていたのを見て、ゴミ箱にあった空き瓶を拾って、後ろから空き瓶で壮年男の後頭部を殴って気絶させた。ヴィンセントは医療着を脱ぎ捨て、中年男が身につけていた服に着替えてモバイルフォンを奪った。ヴィンセントはモバイルフォンで電話をかけて応答したロシアンマフィアのドミトリーに、「俺だ！ 忘れたか！ ヴィンセントだ！ ワシントンスクエア公園にいる。迎えにきてくれないか？」と聞いた。ドミトリーは、「これは驚いたな！ 生きていたのか！ わかったぞ！ ワシントンスクエア公園だな」と答えた。ワシントンスクエア公園に迎えにきたドミトリーは本物か目を疑いながらヴィンセントと車に乗せて夜景の綺麗なマンハッタンブリッジを渡って第１２埠頭へ向かっていった。車の中でヴィンセントはドミトリーに、「グリゴリーは今どこでどうして生きいてる？」と聞いた。ドミトリーは、「韓国でサツに見つかって、グリゴリーはアメリカから追ってきたFBIの国際捜査班にアルカトラズに護送された」と答えた。ヴィンセントは、「そうなのか！」と言った。ドミトリーが運転する車は第１２埠頭に着いた。車から降りたヴィンセントとドミトリーはロシアンマフィアのボスのマルクがいるところまで歩いていった。ヴィンセントとドミトリーは埠頭にある倉庫に入っていって、ロシアンマフィアのアジトに着いた。そこで居合わした顎に長い白髭で中年男のマルクはヴィンセントに、「ヴィンセントか！ 生きていたなんて不思議な奇跡が起こるんもんだな！」と言った。ヴィンセントは、「俺は早死したくない。アルカトラ

ズに囚われてるグリゴリーをなんとかして釈放してやりたいんだ！」と言った。マルクは、「そうだな！ わしにいい考えがある。おまえはサツに追われる身だ！ 見つかればグリゴリーと同じくアルカトラズに護送される」と言った。ヴィンセントは、「どんな考えがあるんだ？」と聞いた。マルクは、「おまえは偽造のプロだ！ ヴィンセント・ウォーカーは死んだことになってる。本名ダニール・イリニフに戻すんだ！ そうすれば身分を隠せる。そして、ローガン大統領の暗殺計画を予告した引き換えにグリゴリーの釈放を要求すればいい」と答えた。ヴィンセントは、「そりゃいい考えだ！」と言った。ニューヨークダウンタウン病院にて、翌朝になって研究室でフランス人の研究者が首を締められて殺害されてることに気づいたのは看護婦が ID カードをかざして研究室のドアが開いたときだった。警察に通報した看護師は、やってきたニューヨーク市警殺人課のマテオ・ロペス刑事たちから事情を聞かれた。後からやってきたマテオの部下はマテオ刑事に、「昨日の深夜に中年男がワシントンスクエア公園で何者かに空き瓶で後頭部を殴られて服とモバイルフォンを奪われて周辺に医療着が投げてあったそうです！」と言った。マテオは、「やはり犯人はヴィンセントか！ 植物人間から蘇生して動き出したということか！」と言った。マテオ刑事は病院を離れて市庁舎を訪ねてヴィンセントについて調べたら８年前に死因は臓器不全で亡っていた。マテオ刑事は病院にヴィンセントの今までのカルテが存在しているのと、内部情報によれば確かに研究室で療養中と記されていたことを疑問に感じていた。マテオは奪われた壮年男のモバイルフォンの GPS 機能を使って捜索して、夜景の綺麗な第１２埠頭にたどり着いた。倉庫まで来たマテオ刑事は拳銃を片手に持って一人で乗り込んでいった。銃を持つマテオ刑事は倉庫から出てきたマルクに、「おいっ！ ヴィンセントという男はきてないか？」と尋ねた。亡命したヴィンセントはマテオ刑事に、「銃を下ろせ！ 俺ならここにいる。ヴィンセントはいない！ 俺はダニールだ！」と言ってマテオ刑事の後頭部に銃口を突きつけた。銃を下ろしたマテオ刑事は、「おまえがヴィンセントか！ 俺を殺してもすぐに警察と FBI 捜査官などがおまえらを追ってくるだろう！ 巧妙な偽造でヴィンセントはこの世から消えたのか？」と聞いた。マルクは、「ダニールは偽造屋だ！ どんなこともパソコンとプリンタがあればすぐに偽造できるんだ！ どうだ！ わしらと手を組んで取引しないか？」と聞いた。マテオ刑事は、「嫌だ！ おまえらなんかと手を組む気はない！」と答えた。マルクは、「それならこれを見ろ！」と言ってマテオ刑事にタブレットの映像を見せた。映像はマテオ刑事の家庭に覆面を被ったドミトリーたちの３人が侵入してマテオ刑事の妻と子供３人を誘拐して両腕両足をガムテープで縛って口にガムテープを貼り付けてどこかに監禁した。マテオ刑事は、「なんで俺がくることがわかったんだ？」と聞いた。マルクは、「わしらは何人か汚職警官と提携してる！ サツの動きはすぐにわかる！ GPS 機能でここに来ることはわかっていた」と答えた。マテオ刑事は、「わかった！ 妻と子供たちには関係ない。そこから解放してやってくれ！」と言った。ダニールはマテオ刑事の後頭部から銃を下ろした。マルクは、「この件について口封じのために賄賂の４０００ドルをやるから可愛いベイビーたちにも内密してもらう」と言った。マテオ刑事は、「わかった！ 誰にも言わないと約束する！」と言った。マルクは、「もし約束を破ったときはおまえと可愛いベイビーたちの命はないと思え！」と言って、計画的にアジトの裏にある部屋の中に監禁されていたマテオ刑事の妻と子供たちをマテオ刑事のところに解放した。マテオ刑事

は妻と子供たちを抱きしめて倉庫から外へ出ていった。ダニールは倉庫の外に出てイースト川側へ歩いていって、壮年男から奪ったモバイルフォンをイースト川に投げ捨てた。マルクに拘ってしまったマテオ刑事は、車で妻と子供たちを家に送り返した。マテオ刑事は妻と子供たちに、「このことは誰にも言ったらダメだ！ パパと約束だ！」と言って車に乗って署へ戻っていった。ロシアンマフィアを牛耳るマルクは手下たちに、「まだサツにアジトはバレていない。明日の朝から計画を実行するぞ！」と言って、手下たちとウォッカを呑み比べして倒れ込むまで呑んだ。覆面を被ったマルクはローガン大統領に、「わしは北欧諸民族の種馬だ！ アルカトラズ島に服役してるグリゴリーを釈放させろ！明日までに釈放しなかったらあなたを暗殺を実行する」と言ってワシントン D.C. 周辺地域に電波法を無視したテレビで放送を流した。これを見たローガン大統領はホワイトハウスの片隅で冗談じゃない外交問題に困り果てた姿をニュースに取り上げられたが無視することにした。翌日にローガン大統領は身辺護衛のためにホワイトハウスへ SWAT 部隊の配慮を願った。宿舎から SWAT 部隊をホワイトハウスへ派遣して内部周辺をそれぞれが位置に着いた。SWAT 部隊は深夜０時過ぎて、いつどこで敵が現れるか警戒していた。ホワイトハウスに左右から荷台のあるトラック２台がやってきて、荷台から覆面を被った男たちが旧ソ連軍用 Kord 重機関銃で外で護衛している SWAT 部隊をうつ伏せで撃っていった。外で護衛している SWAT 部隊は先の尖った特殊な弾が防弾チョッキを貫通して倒れていった。覆面を被った男たちの３０人は、ホワイトハウスの表の入口に乗り込んでいった。SWAT 部隊はアサルト小銃で旧ソ連製の PK 機関銃を持って乗り込んできた覆面を被った男たちの３０人を撃っていった。SWAT 部隊は覆面を被った男たちの３０人を壁に隠れては撃っていって、何人かを倒していったが、覆面を被った男たちの PK 機関銃で撃った特殊な弾が塀を貫通して、足や腕などに当たって動けなくなった者がいた。シークレットサービスはホワイトハウス司令塔 1 階にあるレッドルームで休んでいるローガン大統領を東棟の２階の隠れ部屋に避難させた。残った覆面を被った男たちの２５人は司令塔と東棟と西棟に分かれて散らばった。SWAT 部隊は司令塔には一つしかない階段を上ってくる覆面を被った男たち９人をアサルト小銃で撃っていってから、４人ほど倒れたが PK 機関銃で撃たれていって、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して何人か倒れた。SWAT 部隊は西棟に繋がる連絡通路を走ってきた覆面を被った男たち８の人をアサルト小銃で撃っていって、シアタールームに入った４人を撃って倒して細かい部屋に隠れていった４人を撃って倒したが、PK 機関銃で撃たれていって、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して３人ほど倒れた。SWAT 部隊は東棟に繋がった連絡通路を走ってきた覆面を被った男たちの８人をアサルト小銃で撃っていって、プールサイドで撃ってプールに落して一人を倒して東棟の２階へ通じる階段がなかったために行き止まりになって小部屋に隠れた７人を撃って倒したが、PK 機関銃で撃たれていって、特殊な弾が防弾チョッキを貫通し二人ほど倒れた。東棟の２階の隠れ部屋のある部屋でウッド隊長とスティーブンが護衛していた。スティーブンはウッド隊長に、「大統領を護衛するのは CIA だけじゃないですか？」と聞いた。ウッド隊長は、「CIA は世界中心だけどが FBI は国内中心だ！」と言った。覆面を被った男たち５人は大統領が休んでるレッドルームとブルールームとイエロールームを探したが、見当たらずに司令塔から連絡通路を渡って東棟の２階までやってきた。ウッド隊長は SWAT 部隊に、「これはスポーツ大

会じゃないんだ！ 命懸けで大統領を守って、全力を尽くせ！」と言って配置につかせた。覆面をかぶった男たち５人のうちのマルクは、「この辺りなにか怪しい！」と言って覆面をかぶった男たちの５人を止めた。残ったSWAT部隊は盾とアサルト小銃を持って覆面をかぶった男たちの５人を取り囲んだ。ウッド隊長は覆面をかぶった男たちの５人に、「機関銃を下ろして腹ばいになれ！」と言った。マルクは、「それは断る！ ローガン大統領はわしらの忠告を怠ったんだ！」と言って覆面を脱いだ。追い込まれた武装集団の５人はPK機関銃でSWAT部隊を撃ちかましていってから、散らばった。しばらく続いた銃撃戦でSWAT部隊は武装集団の５人のうちの２人を撃って倒したが、PK機関銃で撃たれていって、特殊な弾が防弾チョッキを貫通して、ほとんどが倒れた。隠れ部屋のある部屋に居座ってるウッド隊長とスティーブンだけが助かった。残った武装集団の３人が残った。ドミトリーはマルクとダニールに、「この壁の向こうに隠れ部屋がありそうだ！」と言ってPK機関銃で撃ちかましていって、隠れ部屋の扉を開けて手榴弾を投げ込んだ。ヘルメットをはずしたウッド隊長とスティーブンは隠れ部屋から秘密の扉を開いて移ったところの非常階段でローガン大統領を連れて東棟の１階まで下りていった。マルクたちは隠れ部屋がある部屋の中に手榴弾を投げて爆破して侵入したが、ローガン大統領の姿はなかった。ウッド隊長はローガン大統領に、「大丈夫です！ 理不尽ないたずらだと思っていたものですから、こんな惨事になると思ってもいませんでした！」と言った。ローガン大統領は、「それにしても野暮な連中だ！ 今からでも応援要請を頼みます！」と言った。ウッド隊長は、「今からは時間が間に合いません！ ３対２は不利ですがやってみます！」と言って、東棟から走って連絡通路を渡って司令塔の出口から外へ出ていった。ウッド隊長とスティーブンはローガン大統領を安全な場所に避難させてマルクたちに立ち向かっていった。マルクたちのトラックを奪ったウッド隊長は、トラックを走らせて、外に出てきたマルクたちに突っ込んでいった。トラックの荷台に隠れていたスティーブンは、トラックを避けてうつ伏せ状態のマルクたちを立ち上がろうとしたときに、右側にいたマルクとドミトリーをアサルト小銃で撃っていって、倒した。左側にいたダニールは、スティーブンにPK機関銃で撃っていったが、荷台に伏せたスティーブンを遣れなかった。ウッド隊長はトラックから降りてアサルト小銃でダニールを撃っていったのだが、どこかへ逃げていった。ウッド隊長とスティーブンは最後に護衛させて護送車でローガン大統領の暗殺を抑えた。ウッド隊長はスティーブンに、「今、逃げていったのはヴィンセントじゃなかったか？」と聞いた。スティーブンは、「わからないですね！ あれがヴィンセントかも！ 今回は路頭に迷わされたから武器の準備と配慮を整えましょう！」と答えた。BAUのジョンは、ホワイトハウスに侵入した武装集団を調べたところでロシアンマフィアと判った。あの場を逃げた男はヴィンセント・ウォーカーと名前を変えていただけの本名がダニール・イリニフという者だったんだ。ダニールはボスのマルクとダチのドミトリーが遣られて激怒して周りがパニックになった。ダニールはマルクの代わりにボスとなって第１２埠頭の倉庫にロシアンマフィアの手下の３９人を集めてアルカトラズ島に囚われてるグリゴリーを脱獄させる陰謀を企てた。ダニールを率いるロシアンマフィアはカリフォルニア州サンフランシスコから離れたアルカトラズ島へ屋根付き荷台のあるトラック３台に乗り込んで向かっていった。ロシアンマフィアの４０人はサンフランシスコに４日かけてたどり着いて、海峡の船乗り

場まで行くと、客たちを降させて乗っ取った大型クルーザーに乗り込んでいって、反逆者のダニールが船長に向けたPK機関銃で船長を脅してサンフランシスコ湾にあるアルカトラズ島に向かわせた。ワシントンD.C.のFBI本部から宿舎にいるSWAT部隊に非常事態出動に数名選ばれた。直ちに出動したSWAT部隊は輸送ヘリに乗って、アルカトラズ島へ向かっていった。アルカトラズ島に着いたロシアンマフィアの４０人は、監獄島アルカトラズから護衛してるやってきた刑務官たちが機関銃で撃ってくると片っ端から撃っていった。アルカトラズ島に乗り込んだロシアンマフィアは連邦刑務所まで来たが、ゲートがロックされた塀の高い連邦刑務所に入るには容易じゃなかった。ダニールは、「了解！ そろそろ約束の時間になる」と言ってダニールから賄賂を受け取ってるロシア空軍パイロットのイヴァンを呼んでいた。遅れてきたイヴァンの操縦する米軍基地から奪ったカモフラージュのMi-24の攻撃ヘリコプターがアルカトラズ島の上空に現れた。イヴァンはロシアンマフィアを機関銃で撃ってる刑務官たちを機関砲で撃っていった。イヴァンは連邦刑務所のゲート前に降り立ってロケット弾を２発撃ってゲートを破壊した。ロシアンマフィアは連邦刑務所に侵入していって、機関銃で撃ってくる刑務官を撃っていった。SWAT部隊は６時間位でサンフランシコ湾にたどり着いて、アルカトラズ島にパラシュートで降り立った。イヴァンはヘルメットを被ってないSWAT部隊に的を向けて機関砲を撃っていった。散らばっていったSWAT部隊の一人は低空飛行中のイヴァンの操るMi-24攻撃ヘリにロケットランチャーでロケット弾を発射して撃破した。ロシアンマフィアはグリゴリーを探しに散らばっていった。SWAT部隊は連邦刑務所に入って、それぞれが散らばっていった。グリゴリーを見つけたダニールは檻の中でオレンジ色の囚人服を着てる壮年となったグリゴリーに問いかけた。ダニールはグリゴリーに、「おいっ！ 久しぶりだ！ 俺のことを覚えてるかい？」と聞いた。グリゴリーは、「覚えてるさ！ ヴィンセントだろう！ 同じ穴のムジナだからな」と答えた。ダニールは、「そうだ！ 名前を元に戻した。今はダニールだ！ おい！ そこを離れろ！」と言って、PK機関銃を檻の鍵穴に向けて撃って破錠した。ダニールは檻の鉄格子の扉を開いてグリゴリーを連れて脱獄をはかった。SWAT部隊はロシアンマフィアにアサルト小銃で撃ってロシアンマフィアはSWAT部隊とPK機関銃で撃ち合いを繰り返した。リチャードはロシアン相撲であるサンボの達人のヴィクトルとばったり遭遇してしまってアサルト小銃で撃とうとしたときに、腕を取られてアサルト小銃を奪われて無防備となって、気が混乱した。リチャードは体格のいいヴィクトルにマーシャルアーツで立ち向かっていった。リチャードはヴィクトルにパンチやキックしていったが、首を持たれて持ち上げられて払い飛ばされた。リチャードは気合いを入れて立ち上がってパンチやキックしようとしていったが、腕を取られて背負い投げで投げられて立ち上がってから腕を取られて巴投げで投げられて鉄格子の檻にぶち当たって横たわった。本能が騒いだ囚人たちは、「やっちまえ！ ここから出せ！」と喚いた。リチャードは立ち上がったら、腕を取られないように払って左パンチに右パンチしてくるヴィクトルに左パンチに右パンチしていって、カウンターに入ってからストレートパンチで顔面を殴って回し蹴りしていってハイキックしてヴィクトルを倒した。リチャードは立ち上がったら、床に落ちたアサルト小銃を拾おうとしたときに立ち上がったヴィクトルにPK機関銃で背後から撃たれそうになったが、ヴィクトルの背中にアサルト小銃で３発を撃ったスティーブンのお陰

で絶体絶命を助けられた。リチャードはスティーブンに、「助かった！ 名前はなんていいます？」と聞いた。スティーブンは、「アレックスです！」と答えた。リチャードは、「隊長ですか！」と言って分かれていった。ダニールはグリゴリーを連れて連邦刑務所の屋上に上がってきて、屋上に待機してるはずの攻撃ヘリコプターに乗って脱獄する予定だったが、計画どおりにいかなかった。屋上に駆け付けてきたウッド隊長はアサルト小銃を向けたダニールに、「動くな！ PK 機関銃を捨てて、両手を挙げろ！」と言った。ダニールは後ろを振り返ってウッド隊長に PK 機関銃を撃っていった。ウッド隊長はすぐに伏せたら、ドラム缶に隠れてアサルト小銃でダニールを撃っていった。後で駆け付けてきた SWAT 部隊はダニールとグリゴリーに狙いをいつけてアサルト小銃を向けた。ダニールはグリゴリーに、「よしっ！ 海へ飛び降りるぞ！」と言ってダニールとグリゴリーは一緒に海へ飛び降りていった。SWAT 部隊はアサルト小銃を海に向けてぶっ放していったが、ダニールとグリゴリーは水面に浮かび上がらなかった。屋上にやってきたロシアンマフィアの手下は SWAT 部隊に PK 機関銃で撃ってきたが、SWAT 部隊の特殊な弾を通さない防弾チョッキを着用していたお陰でアサルト小銃の弾丸を浴びて倒れていった。スティーブンは屋上から階段を下りてきたロシアンマフィアの手下をアサルト小銃で撃っていって、倒した。ダニールとグリゴリーは泳ぎ疲れてサンフランシスコの陸まで行けずに、サンフランシスコ湾の海の上で仰向けになって浮かんでいたところを漁師に助けられて、漁船に乗ることができた。漁師はグリゴリーに、「監獄島を脱出したか？」と聞いた。グリゴリーは、「大型クルーザーの上でハロウィーンパーティしてふざけてたら海に落ちてしまって！ これはの囚人のコスプレだ！」と答えた。漁師は、「そうか！」と言ってしばらくしてコヨーテ・ポイント・ヨット港でダニールとグリゴリーを降ろした。ダニールはグリゴリーをコヨーテ・ポイント保養地に身を隠してサン・マテオの街へ歩いていって、ダニールの服を買ってきた。グリゴリーは服に着替えてダニールと一緒にニューヨークまで行ったら、トラックを探しに向かった。ダニールとグリゴリーはニューヨークの方向へ向かったトラックを見つけてヒッチハイクしてニューヨークにたどり着いた。丸坊主のグリゴリーとダニールは街から歩いていって、第１２埠頭の倉庫に着いた。グリゴリーは無罪じゃなくて自由の身になった訳じゃないと知っていたから、どんな手段もにいとわないダニールについていくすべしかなかった。殺し屋のダニールは、汚いやり方でも思惑どおりにいかなかったことに関してないがしろにした。大型クルーザーに乗った SWAT 部隊は、元海軍基地の跡地であるトレジャーアイランドまで行ってトレジャーアイランドから輸送ヘリに乗ってアンドルーズ空軍基地へ向かっていった。SWAT 部隊は輸送ヘリに乗ってアンドルーズ空軍基地にたどり着いた。SWAT 部隊は FBI 本部に戻って武器を置いて装備をはずしてスワットユニホームを脱いでシャワーを浴びて私服に着替えて宿舎へ戻っていった。FBI 本部に残っていたスティーブンは部屋へ戻ろうとしたときのリチャードに、「父さん！ あ！ 間違えたっ！ リチャード！」と言った。リチャードは、「あっ!ウッド隊長さん！」と言った。スティーブンは、「アルカトラズからグリゴリーが脱獄したことは悪い兆しがある」と言った。リチャードは、「危険が渦むく前に戒めましょう！」と言った。スティーブンは、「危険は待たない！ 秩序を持たず残忍な行為をしてきた連中ばかりだった！」と言った。リチャードは、「そうですね！ 俺は次で最後の任務となります。これまでの戦いで人生を歪めら

れた！」と言った。スティーブンは、「俺のほうが年下なんだから、敬語はいいですよ！」と言った。リチャードは、「隊長なんですから！」と言って宿舎まで歩いていった。リチャードは、「隊長の部屋はどにですか？」と言った。スティーブンは、「俺はこの部屋です！ それじゃあ！」と言って部屋へ戻った。リチャードは、「俺の部屋３０２ですよ！ 覚えといてください！ 今度、遊びにいくんで！」と言って部屋へ戻っていった。

迷える宇宙の扉から帰還

クリスマスイブで復活したグリゴリーは第１２埠頭の倉庫でときどき邪悪に満ちた顔を見せるダニールと共に身を隠していた。ダニールはグリゴリーに、「ホワイトハウスでローガン大統領暗殺を目論んだときにマルクとドミトリーはウッド隊長とスティーブンにやられたんだ！」と言った。グリゴリーは、「そうかあ！ 敵討ちするのか？」と聞いた。ダニールは、「そうだ！ ウッド隊長とスティーブンをどこかに呼びよせて陰謀の罠にハメてやろう！」と答えた。グリゴリーは、「どうやってやる？」と聞いた。ダニールは、「マテオ刑事を使ってだ！ ウッド隊長とスティーブンの情報もマテオ刑事に聞き出した！」と答えた。ダニールは、「俺はスラヴ民族と言わせない。ロシアの英雄になることだ！」と言った。グリゴリーは、「そうだな！ それに勝ることはない」と言った。宿舎に休んでるリチャードはいきなりモバイルフォンが鳴り出して電話をとった。マテオ刑事はリチャードに、「元気だった？ ウッド隊長とスティーブンを知っているか？」と聞いた。リチャードは、「ウッド隊長は知っている」と答えた。マテオ刑事は、「今からウッド隊長に第１２埠頭の倉庫Ｂにきてもらうように伝えてくれないか？」と聞いた。リチャードは、「なぜウッド隊長を呼ぶんだ！」と言った。マテオ刑事は、「ウッド隊長は連邦刑務所でダニールとグリゴリーを海岸に追いやったんだろ！ その時の事情を聞きたい！」と言った。根絶したリチャードは、「わかった！」と言った。リチャードは電話を切ってからこないだ知ったウッド隊長の部屋へ向かった。リチャードはスティーブンの部屋を訪ねてスティーブンと出会った。リチャードはスティーブンに、「ウッド隊長！ ニューヨーク警察のマテオ刑事から電話があって第１２埠頭の倉庫Ｂに来てほしいそうです。どうやらロシアンマフィアのアジトが見つかったらしい」と言った。スティーブンは、「了解！ じゃあいってくる」と言って、FBI 本部から外に出て赤いドゥカティに乗って第１２埠頭の倉庫Ｂへ向かっていった。マンハッタンブリッジを渡ってるスティーブンは凶悪化していく摩天楼のニューヨークシティに薄暗い中で満月の光が見えた。スティーブンは満月の夜に犯罪が起きてる嫌な予感を感じた。アメリカ合衆国では３分に一度どこかで事件が起きていると思いながらマンハッタンブリッジを抜けて

いって、３時間４５分をかけて第１２埠頭にたどり着いた。スティーブンは赤いドゥカティを停めて倉庫Ｂへ向かった。倉庫Ｂの中に入ったスティーブンは、「マテオさん！」と呼んで真っ暗な倉庫内に置いてあった警棒ライトを付けて歩いていった。歩いた途中で後ろ姿のイスに座っている男を見たスティーブンは、「マテオさん！」と言って呼びかけた。すると、いきなり証明の明かりが付いてイスに座ってる男が頭から血を流して殴り殺されていることに気づいた。そのときにマテオ刑事と警官隊が現れた。マテオ刑事はスティーブンに、「ウッド！ おまえをエドガー議員の殺人容疑で逮捕する」と言った。血のついた警棒ライトを見て驚いたスティーブンは、「なにも信じない！ 俺はスティーブンだ！」と言って警棒ライトを投げて倉庫の外へ逃げていった。スティーブンは慌てて出てきて、焦ってヘルメットをかけずに赤いドゥカティに乗って突っ走っていった。パトカーが追ってくる中でマンハッタンブリッジを渡っていった。バイクを走らせるスティーブンはマンハッタンブリッジを渡った途中でダニールの率いるロシアンマフィアの手下８人が車２台を止めて通行妨害して前方の道が塞がれていた。追い詰められたスティーブンは、赤いドカティを止めて後方からパトカーがやってきて、降りてきた警官隊に包囲された。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に板挟みされて赤いドゥカティから降りた。スティーブンはロシアンマフィアと警官隊に銃を向けられて、追い込まれた。スティーブンはマテオ刑事に、「どうしてだ！ ロシアンマフィアがいるのに何もない顔をして何者かが影で操ってるだろうな！」と言った。マテオ刑事は、「スティーブン！ 無駄な抵抗はやめて潔く観念しろ！」と言った。マテオ刑事は、「よしっ！ ひっ捕らえろ！」と言った。絶対絶命の危機でスティーブンはマンハッタンブリッジの柵を越えてイースト川へ飛び降りた。危機一髪で助かったスティーブンは、イースト川を泳いでいった。ロシアンマフィアの手下はマテオ刑事に、「あいつ飛び降りました！」と言った。マテオ刑事は、「ここから飛び降りた者はほとんど助からない」と言った。泳いで陸を目指したスティーブンは後方から水上警察の船がやってくるのが見えた。スティーブンは捕まったらおしまいだと思って泳ぎ切ろうとしたが、助けられたくなって船のハシゴを持って登っていって、水上警察の船上に上げられた。スティーブンは水上警察に関して救護活動する沿岸警備隊であって警官と海軍に関係していても逮捕する権限がないことを知っていた。沿岸警備員はスティーブンに、「大丈夫ですか？ マンハッタンブリッジから人が落ちたとの通報があって救護にきました」と聞いた。再起不能のスティーブンは、「大丈夫だ！ 足から落ちていったので水面に叩きつけられないでいた」と答えた。沿岸警備員は、「不幸な事があって身を投げたか事故とかですか？」と聞いた。スティーブンは、「ロシアンマフィアと汚職警官に追われて飛び込んだ！」と答えた。難を逃れたスティーブンは、「俺はSWAT隊員なんだ！」と言ってFBIのSWAT隊員の金色のバッチを見せた。スティーブンは、「第１２埠頭へいってくれ！ それとモバイルフォンを貸してほしい？」と聞いた。沿岸警備員は、「仕方がない。あなたを信じますよ！」と答えた。沿岸警備員はスティーブンにモバイルフォンを渡した。モバイルフォンを手に取ったスティーブンはウッド隊長に電話をかけて呼び出した。スティーブンはウッド隊長に、「エドガー議員が殺されていると知らずに汚職警官から第１２埠頭の倉庫Ｂに呼ばれてハメられました。汚職警官とロシアンマフィアが連んでいた。板挟みに追い込まれてマンハッタンブリッジから飛び降りたところを沿岸警備隊に助けられました。黒幕が見え

ましたのでダニールたちのアジトと思える倉庫Ｃへ向かいます！ このままでは濡れ衣を着せられてパクられるでしょう！ 至急、応援を願う！」と言って電話を切って沿岸警備員にモバイルフォンを返した。リチャードはウッド隊長のことが気になって、第１２埠頭の倉庫Ｂの近くまで車で来た。何か心配になったリチャードは倉庫Ｂへ歩いていって、倉庫に入った。揺さぶるロシアンマフィアの手下８人と小賢しいマテオ刑事率いる官隊３人が倉庫Ｃに戻ってきた。リチャードは、「ウッド隊長！」と呼んで倉庫を歩いて進んでいくと、後ろ姿で座っている男が血塗れの頭に殺されたエドガー議員であると知って驚いた。倉庫Ｂから外に出たリチャードは倉庫Ｃから人の声が聞こえて倉庫Ｃに潜入して物陰に隠れた。倉庫Ｃの中に入ったリチャードは、「マテオじゃないか！ なんでここにいる」と呟いてマテオ刑事とロシアンマフィアの密会したやり取りを目撃した。ダニールはマテオ刑事に、「ウッド隊長は遣ったか？」と聞いた。マテオ刑事は、「やつマンハッタンブリッジから飛び降りた」と答えた。ダニールは、「バカ野郎！ どこかで生きてるかも知れない。やつの指紋が付いた警棒ライトが証拠だ！ 抵抗して銃を向けてきたから撃ったと言えばよかったんだ！」と言った。緊迫した中でリチャードはこの密会したやり取りをタブレットで録画していた。リチャードはロシアンマフィアの一人に見つかって、頭に銃を突き付けられてタブレットを奪われた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの頭に銃を突きつけたまま歩いていって、ダニールのところにまでに連れていった。ダニールはリチャードに、「ウッド隊長を追ってきたのか？ おまえもSWAT部隊の一員なのか？」と聞いた。リチャードは、「マテオに野暮用があってきただけだ！」と答えた。ダニールは、「なんでタブレットで録画をしていた？」と聞いた。リチャードは、「倉庫Ｂでエドガー議員が殺されていた。てめいらがグルで罪もない人をデマカセをして滅亡に追いやってるんだ」と答えた。ロシアンマフィアの一人はリチャードの後頭部をビール瓶で殴って床に跪（ ひざまず ）けさせた。グリゴリーはロシアンマフィアの一人からタブレットを手にしてタブレットを鉄柱にぶつけて破壊したら、床に落として踏みつけた。グリゴリーはダニールに、「これで証拠を隠滅した！」と言った。ダニールはマテオ刑事に、「マテオ！ こいつを撃て！」と言って銃を渡した。マテオ刑事は、「あんた気は確かか？ こいつは俺のダチで幼い頃から培ってきた親友なんだ」と言った。ダニールは、「だからってなんだ！ 真面目なのに可哀想に！」と言った。裏切りのマテオ刑事はリチャードの頭に銃を向けた。リチャードはマテオ刑事に、「なんで頭の腐ったハイエナたちなんかと手を組んだ？」と聞いた。マテオ刑事は、「妻のローザと息子と娘を誘拐されて妻と子供たちを解放させる条件で仕方がなく賄賂を取って契約した。侵害する嫌がらせの絶えない世の中だよ！ 起動がよくなったときになにもかもに見捨てられたら冗談にすぎない」と答えた。リチャードは、「長い間ダチと思ってたが、もう親友じゃない！ 人生は転けるときたもんだな！ さっきのタブレットで録画したやり取りはもうすでにツイッターで流している。真実は言い逃れない。ムショで反省して出所したら田舎にでも帰って農場で牛の世話でもしたらどうだ！」と言った。マテオ刑事は、「リチャード！ おまえは家柄も顔立ち良くて裕福に育ち羨ましかった！ 幼い頃についてきてくれた女子のティナを、『一緒にいこう！』と言ってどこかへ連れていったことがあった！ すまん！ リチャードよ！ 今の俺に家族が大事なんだ！」と言ってリチャードの頭に向けた銃の引き金を引こうとした。脳裏に危険が過ぎるリチャードは、「やめろマテ

オ！ おまえは人間のクズと一緒になりたいのか？」と聞いた。マテオ刑事は、「うるさい！」と言ってリチャードを撃とうとしたときにスティーブンがマテオ刑事に銃を向けて現れた。気を取られたマテオ刑事はリチャードを撃てなかった。ロシアンマフィアとスティーブンは物陰に隠れながら撃ち合いになった。リチャードとマテオ刑事を率いる警官３人は物陰に隠れた。途中からウッド隊長とレオナルドとトニーが駆け付けてきた。ロシアンマフィアはトカレフの銃でスティーブンはワルサー P38 の銃でウッド隊長はマグナム弾を使ったリボルバー銃でレオナルドはマグナム弾を使ったライフルでトニーはマグダム弾を使った自動銃で撃ち合った。スティーブンはもう一丁のワルサー P38 銃を取り出して両手にダブルで撃っていってリチャードのところに行き着いて、リチャードにワルサー P38 の銃を渡した。リチャードはワルサー P38 の銃でマテオ刑事と警官３人はマグナム弾を使う銃で銃撃戦に参加していった。ロシアンマフィアの手下の７人を撃って倒したが、トニーは胸を撃たれて横たわった。ダニールとグリゴリーは倉庫Ｂへ逃げていった。スティーブンとウッド隊長とレオナルドはダニールとグリゴリーを追っていった。グリゴリーはダニールが上衣を脱いでタンクトップになった時に胸の上辺りに不死鳥のタトゥーが見えた。グリゴリーはダニールに、「そのタトゥーなんの記念の時に入れた？」と聞いた。ダニールは、「マルクに買われた証のものなんだ！ 女は売春をさせられたり男は強盗や窃盗をさせられた」と答えた。グリゴリーは蔑（ さげす ）むダニールに、「韓国の高級クラブでキムという風俗嬢に出会った！ その女も同じ不死鳥のタトゥーが入っていた」と言った。ダニールは、「あぁ！ あの女か！ 自由な身になったからって薬の中毒者じゃ行き場がないからか仕事がほしいからとわざわざアメリカまでやってきてマルクを当てにしてにきたが、足が着く危険性があったんで俺が始末した」と言った。グリゴリーは、「なんだと殺したのか！ 気がしれないな！ あんたどこまでの悪党だ」と言ってダニールに銃を向けて恩を仇で返す真似をしたから諦めて銃を下ろした。ダニールは、「どうせまっとうに生きる手段もないアバズレだ！ すべてマルクの命令で仕方なくしたんだ！ もう生きてないが恨むならマルクだ！」と言って分かれていった。秀でるスティーブンとウッド隊長は倉庫Ｂに入ってダニールを見つけた。ダニールはスティーブンに、「ウッド隊長はやっぱり生きていたか！ そんな猿芝居など通じない。おまえはスティーブンだろ？」と聞いた。スティーブンは、「そうだ！ 俺がスティーブンだ！」と答えた。ダニールは、「よくもマルクとドミトリーをやってくれた」と言ってスティーブンを銃で撃とうとした。ウッド隊長はダニールに、「ウッド隊長はこっちなんだ！」と言ってダニールの持った銃を蹴り飛ばした。スティーブンは、「醜い豚め！」と言って銃でダニールの胸と腹に５発撃って頭に１発撃ってダニールを倒した。レオナルドは倉庫Ｂに入って銃弾の切れたライフルに補充をしようとしたときに、フィリピン武術カリスティックの使い手のマルコヴィチがカリスティックの二本を両手に持って現れた。レオナルドはライフルを投げ捨てカリスティックを振り回してるマルコヴィチに合気道で立ち向かっていった。レオナルドは左右に手刀打ちで攻撃していったが、マルコヴィチにカリスティックで横腹と背中を打たれて、気を取り直して集中力を高めた。マルコヴィチはカリスティックを振り回して、レオナルドを左右に攻撃しようとしたが、レオナルドに顔面を３回蹴られて鉄槌打ちで打たれて入身投げで投げられて背中から床に落ちたときにカリスティックを手放して立ち上がると四方投げで放り投げ上げられて

棚にぶつかって倒れた棚の下敷きになった衝撃で倒れた。スティーブンとウッド隊長はグリゴリーが倉庫Ｂから外へ出ていって、コンテナの並んだ場所に入っていったのを見てコンテナの並んだ場所に警戒して追跡した。スティーブンとウッド隊長はグリゴリーを見つけた。グリゴリーはスティーブンとウッド隊長とコンテナの角に隠れて銃で撃ち合った。ウッド隊長はスティーブンに、「俺は反対から回り込む！」と言って向かった。後ろから近づいたウッド隊長はグリゴリーに、「動くな！ 銃を捨て両手を挙げろ！」と言った。グリゴリーは速やかに銃を捨て両手を挙げた。スティーブンはグリゴリーに銃を向けたまま近づいていった。お手上げ慚愧（ ざんき ）なグリゴリーは近づいてきたスティーブンに、「俺はムショに戻りたくない！ 屈辱を帯びた穴倉生活だった」と言った。リチャードは、「そうか！ でも鉄格子が似合ってるぞ！」と言ってウッド隊長が手を下させて後ろから両腕に手錠をかけようとした。グリゴリーは、「あの時マルクと会わなければよかった！ またムショに戻るわけにいかない」と言ってスティーブンが持った銃を押さえてウッド隊長の腹を蹴って銃を右に向けたときにスティーブンの引き金を引いた銃弾がウッド隊長の肩をかすった。スティーブンはグリゴリーに抑えられた銃を空に向けて、何発か撃った弾切れの銃を奪われた。ウッド隊長は肩から血を流して横たわった。スティーブンに銃を向けたグリゴリーは、「ここにくるまでもち堪（ こた ）えたな！」と言ってスティーブンを撃とうとして引き金を引いたが、弾切れをしていた。銃を投げ捨てたグリゴリーは、「この野郎！」と言ってスティーブンを蹴り飛ばした。グリゴリーはスティーブンの顔をパンチしようとしたが、スティーブンにかわされて胸板をパンチされた。グリゴリーはスティーブンに回し蹴りしていって、スティーブンにかわされて肘で右足を打たれた。怒ったグリゴリーは右足を引きずりながらスティーブンの右足に痛めていない左足で５回ローキックして顔をハイキックしてスティーブンが横たわった。スティーブンは立ち上がって、後ろから固技で首を絞められたグリゴリーの腹を２回パンチして顔をパンチしてグリゴリーを解き払った。スティーブンはグリゴリーの腕を取って固めて腹を何度もキックしていって、真正面から３回ハイキックしていった。鼻から血を流したグリゴリーはスティーブンにパンチしようとしたが、かわされて右足で腹を蹴られて倒れた。スティーブンはウッド隊長に、「大丈夫ですか？」と言ってウッド隊長を立ち上げて肩を組んだ。ウッド隊長は、「俺は大丈夫だ！ それよりトニーのほうが心配だ！」と言ってトニーのところへ向かった。リチャードはマテオ刑事と警官二人と撃ち合って警官二人を撃って倒した。銃弾が切れたマテオ刑事は、降参してリチャードのところに現れた。リチャードはマテオ刑事に銃を向けて、「なんで賄賂なんか取ったんだ！ そこが甘かった！」と言った。マテオ刑事は、「ちょうどお金に困ってるときだったから金が必要だったんだ！」と言った。リチャードは、「おまえは所詮サツの犬だから、骨の髄まで洗い流せ！」と言ってマテオ刑事を撃てずに銃を下ろした。リチャードはマテオ刑事を連行して倉庫Ｃから外に出てからパトカー３台のところに連れてきた。ニューヨーク市警の刑事課長はマテオ刑事に、「尻尾を巻いて出てきよったか！ なんで署の信用問題に欠けることをした？」と聞いた。マテオ刑事は、「自分は悪いわけじゃありません！ 悪いのはロシアンマフィアなんです！」と答えた。刑事課長は、「とぼけるな！」と言った。向こうからやってきた痛しげなグリゴリーは、「おいっ！ 待つんだマテオ！ おまえは俺たちと一緒にいくんだ！」と言ってトカレフの銃でマテオ刑事を３

発撃って道連れにした。警官隊は最後の一撃でグリゴリーを５発撃ってグリゴリーを倒した。リチャードはマテオ刑事に、「おいっ！ しっかりしろ！」と言ってマテオ刑事を揺さぶった。マテオ刑事は、「おまえに人生最後は勝ちたかった！ 俺のほうが先に結婚できて家族を持ったから勝ったよ！」と言ってリチャードの腕に支えられながら息を引き取った。トニーのところに行ったスティーブンはウッド隊長と一緒に意識を確認したけどトニーが重体だった。SWAT 用特殊ヘリにトニーを運んでから乗り込んだスティーブンとウッド隊長とレオナルドはクリスマスの夜景にクリスマスツリーの見える街を眺めてワシントン D.C. の SWAT 本部まで向かっていった。リチャードは自分の車の近くでウッド隊長のヘルメットを拾ってトランクに入れて車で SWAT 本部まで向かっていった。雪の降ったニューヨークのマンハッタンのクリスマスは泣いていた。3 ヶ月後、ウッド隊長はすっかり権威を失う事態だったが、傷を癒して回復した。トニーは無事に蘇生して退院まで安静にした。レオナルドは SWAT 本部に常駐していたが、ロス警察のリトルトーキョー署へと戻っていった。リチャードはスティーブンに、「ウッド隊長！ 第１２埠頭にヘルメットを忘れてました」と言ってヘルメットを渡した。スティーブンは、「ありがとう！ これで引退？」と聞いた。リチャードは、「そうですよ！ 任期１０年でした」と答えた。ニューヨーク市警から SWAT 本部まで赤いドゥカティが戻ってきた。ロシアのゴルチャコ大統領はローガン大統領に外交問題について対談した。これでロシアンマフィアの陰謀工作をなんとか食い止めた。リチャードはニュース番組のレポーターで出会ったルーシーと交際して２年が経とうとしていた。ある日の夜の港でルーシーはリチャードに、「実は私に傷があるんです！」と言った。リチャードは、「えっ！ 盲腸の手術で縫い跡があるとか何か大きな病気にかかったことがあるとかの縫い傷か何か？」と聞いた。ルーシーは、「いえ！ 心の傷なんです！」と答えた。リチャードは、「なんだよ？」と聞いた。ルーシーは、「あの！ １５才の頃に初めて付き合った彼の部屋で乱暴されて処女を奪われたことです」と答えた。リチャードは、「でも付き合った彼だったなら別によかったんじゃない？」と聞いた。ルーシーは、「初めの彼に身を許さなかった！ 怖い！ リチャードさん助けて！」と答えた。リチャードは、「大丈夫だ！ 俺がついている！ 結婚しよう？」と聞いた。ルーシーは、「はい！ だけどもうひとつ怖い体験がある。SWAT の危険が伴う仕事は辞めてほしい！ 裏切ったマテオさんのように家族が危機にさらされるような事があったら人事じゃないなと思ったから！」と答えた。リチャードは、「わかった！ SWAT を辞めたらロス郊外に移住しよう！ そして、俺はマーシャルアーツの道場を開く！」と言って港の公園のベンチで二人抱き合いながら結婚を誓いあった。３月２７日にリチャードとルーシーは SWAT 部隊の仲間を集めて教会で挙式した。スティーブンは外からその様子を眺めていた。エイプリルフールの日に引退をしたリチャードは宿舎でスティーブンとあった。リチャードはスティーブンに、「どうして挙式にきてくれなかったんですか？」と聞いた。スティーブンは、「仕事が入ったんでごめんなさい！」と答えた。リチャードは、「俺は今からロス郊外に移住してマーシャルアーツ道場を開くんです！」と言った。スティーブンは、「いいですね！」と言った。リチャードは、「引っ越しで忙しいんで！ じゃあまた会える日を楽しみに！」と言った。スティーブンは、「それじゃあね！ また会おう！ 幸運を祈ってる」と言った。リチャード別れたスティーブンは赤いドゥカティに乗ってエイムズ研究センターへ向かっていった。

エイムズ研究センターに着いたスティーブンは、赤いドゥカティから降りて駐輪場に赤いドゥガティを置いてエイムズ研究センターに入って受付を通してギルバート博士を呼んでもらった。スティーブンはギルバート博士が受付にやってきて、望遠鏡のある天文台にエスコートしてもらった。ギルバート博士はスティーブンに、「この１年でリチャードに会えた？」と聞いた。スティーブンは、「会えて親しくなれた」と答えた。スティーブンは、「だけど父さんに会うためにSWAT部隊に入隊したけどなんども死に目にあった！」と言った。ギルバート博士は、「それはこの世に生まれてくることなくて存在がなくなってしまうとこだった」と言った。スティーブンは、「自分は未来に戻ります！ それじゃあ！ グッドラック！」と言って宇宙服を着てヘルメットをかぶって２０３５年４月３日の１２時２０分に設定した。ギルバート博士は、「グッドラック！ 未来の私によろしくいっといてくれ！」と言った。スティーブンは、「鍵を忘れた！」と言ってギルバート博士に鍵を投げ渡して時空転送の門をくぐっていった。１年で三次元装置の異変が起きて、時空転送の門に変化が起きた。ギルバート博士がスティーブンを宇宙へ移すためにどこかで気づいたスイッチを切り換えたまま放置していた。三次元装置は三次元トライアングルから四次元スクエアに切り替わって、時空をさまよい二つの小さい銀河同士が衝突して光まで飲み込む大きなブラックホールが出来た。スティーブンはボール状のカプセルに入ったら、体がちぎれるような思いをして、大きなブラックホールに吸い込まれていった。別の離れた一点に直結した異次元空間に入ってトンネルのような抜け道を抜けていった。異次元空間から落ちたスティーブンは、カプセルから出て時空転送の門をくぐり抜けた場所がどこかの惑星だった。スティーブンはこれは時空転送の門じゃなくて、スペースステーションゲート（ 宇宙の扉 ）をくぐり抜けてきたんだなと思った。スティーブンのところにひょろ長いパピュラス星人の二人がやってきた。パピュラス星人の一人はスティーブンに、「おまえは地球人か！」と言ってスティーブンにレーザー光線銃を向けた。ここがパピュラス星だと気がついたスティーブンは、「そうだけどステーションゲートをくぐったらなぜかここにやってきた」と言った。レーザー光線銃を下ろしたパピュラス星人の二人は、スティーブンを捕らえて宮殿まで連れていった。パピュラス星人の二人が宮殿に連れてきたスティーブンをグード王の場所まで連行して、パピュラス星人二人が戦闘モードのトカゲのような顔を解除して人間のような顔になった。太ってる人間のような顔したグード王はスティーブンに、「ようこそ！ パピュラス星に何が目的でやってきたのか？」と聞いた。スティーブンは、「地球にパピュラス星人の妹がいる。妹は背の高さと爬虫類のトカゲのような肌が治って地球では早く年をとらない薬があれば欲しいと願って星を目指した」と答えた。グード王は、「ほおっ！ 海王星に水晶のクリスタルがある。それを肌にすり当てるだけでたちまち地球人らしくなるはずだ」と言った。スティーブンは、「どうしたら、その星にいける？」と尋ねた。グード王はパピュラス星人の一人に、「地球にパピュラス星人の妹がいるのだ！ この地球人を海王星まで宇宙船に乗せていってやれ！」と言った。パピュラス星人の一人は、「わかりました」と言って、一緒に宮殿から外に出てスティーブンを宇宙船に連れていった。パピュラス星人の一人はスティーブンを宇宙船まで連れてきて、宇宙船にスティーブンを乗せて離陸していった。スティーブンは宇宙船の中で窓の外を眺めていた。スティーブンは、「いつか膨張を続けている宇宙は太陽が地球と他の惑星を飲み込んでいって５０億

年後に最後のブラックホールが消滅したら、闇だけ支配する空間と素粒子だけ残る。その頃まで幸いに我々は生きていない！ ビックバンが起きて再び宇宙の始まり新たな生命が生まれて生物が潜んでるかわからない」と思った。宇宙船はぎりぎりに太陽系へ入ってきたら黒い物質で少し途切れた６本のリングがある第八惑星の海王星へ向かっていった。宇宙船はダークマター（ 暗黒物質 ）を避けていったら、氷の惑星の青い海王星に直陸した。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宇宙船から出てマイナス２２０度の極寒で防寒モードボタンを押して宇宙服の中を暖めて強い磁波のあるダイヤモンドの平原を歩いていった。磁波があることからオーロラを見ることがあって、太陽から遥か遠くを回っている惑星だけに極寒で風速４００メートルの風が吹くこともあるガス惑星で時速２４００キロの嵐が起こりうるときがあるために急いでクリスタルを探しにいかねばならなかった。海王星から地球まで４３億５千キロ離れていて、地球より４倍も大きくて大気が水素８０パーセントでヘリウム１９パーセントで少しメタンで出来ていて、海王星が青く写る理由はメタンが大きく関わってる。海王星は１日が１６日ぐらいで四季がすべて極寒である。海王星は水があって、メタンが分解された炭素を水に加えたら金属化する。トリトンという衛星が海王星の反対方向で回っている。スティーブンはダイヤモンドの雹が降り出して、急いで金属化した一部が氷山に繋がった道を歩いていってダイヤモンド海に浮かんだ氷山に登っていった場所でダイヤモンドよりも六角柱状の自然の作り出した結晶体で美しい輝きを放ったクリスタルを見つけ出した。スティーブンは手のひらサイズのクリスタルを手に取って硬くて衝撃に強くて傷つかないし息をかけても曇らないクリスタルを特殊合成された袋に入れた。スティーブンとパピュラス星人は氷山を降りたところにある金属化した道で宇宙盗賊団の横太いペルサイナ星人と遭遇した。ペルサイナ星人はスティーブンに、「そのクリスタルはペルサイナ星の大切なエネルギー物質となる資源なんだ！ それを渡すんだ！」と言ってスティーブンに冷凍銃を向けた。パピュラス星人は戦闘モードでトカゲのような顔になって、レーザー光線銃でペルサイナ星人を攻撃していった。ペルサイナ星人は戦闘モードでカエルのような顔になって、冷凍銃でパピュラス星人を攻撃していった。ペルサイナ星人はパピュラス星人とスティーブンが逃げていくところを氷の結晶体よりもダイヤモンドで出来た平原を冷凍銃で破壊していった。パピュラス星人とスティーブンは金属化した岩に隠れたが、隣でパピュラス星人が冷凍銃の攻撃を受けて金属化した岩が溶けていくまでに冷凍銃の攻撃を受けてないところの金属化した岩の隅からペルサイナ星人のところにプラズマ手榴弾を投げて爆発してペルサイナ星人が横たわった。冷凍銃の攻撃を防いだパピュラス星人は、立ち上がったペルサイナ星人をレーザー光線銃で撃っていって倒した。パピュラス星人とスティーブンは、時速２４００キロで嵐の竜巻が近づいてるのが見えたら、急いで宇宙船に向かった。パピュラス星人とスティーブンは宇宙船に乗り込んで離陸して嵐に飲み込まれていった。宇宙船は嵐をものともしないで海王星から離れていった。スティーブンは温暖モードを解除して宇宙船の窓を眺めながら、今の技術で地球から太陽系の外へ行くことは到底、不可能とされていると思った。宇宙船は小惑星（ コスモ ）をより抜けていってパピュラス星にたどり着いた。スティーブンはパピュラス星人と一緒に宮殿に行ってグード王と会った。スティーブンはグード王に、「クリスタルを得ることできました。ありがとう」と言った。グード王は、「いつか地球が太陽系の外へ行ける日

がきたらいいな」と言った。宮殿の外に出たパピュラス星人とスティーブンは、時空転送の門の場所まで行った。スティーブンはパピュラス星人に、「助けてくれてありがとう！」と言って時空転送の門をくぐろうとして立ち止まった。スティーブンは、「地球で元の世界に戻るつもりだったけど、パピュラス星にやってきた。どうすれば地球に戻れる？」と聞いた。パピュラス星人は三次元装置のスイッチを切り換えて三次元装置が四次元スクエアから三次元トライアングルに切り替わると戦闘モードのトカゲのような顔から人間のような顔に戻った。パピュラス星人は、「誰かに三次元装置のスイッチを切り換えられていたんだ」と言った。スティーブンは、「そうか！ ギルバートさんが仕組んでいたのか！ 今度こそ地球に戻るよ！ それじゃあ！」と言った。パピュラス星人は、「あと違う国にいったときは、このボタンでいきたい国の頭文字を設定するんだ」と言った。スティーブンは、「わかった！」と言って時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐっていった楽園の泉と呼ばれている宇宙（ 軌道 ）エレベーターの静止軌道ステーションにいることに気づいた。引っ張り強さがあるカーボンナノチューブのケーブルを日本の NEC が開発して宇宙に架ける橋として活躍した。地球と同じ速度で周っているから止まってるように見えるので静止衛星と呼んだ。静止衛星からインド洋スリランカのソロモン島の地上に向けてケーブルを垂らして吊り下げたものが地球側の下のほうが重力に引かれて重くなって落ちる危険があるために反対側にもケーブルを伸ばしてバランスをとって、地上に向けたケーブルを更に伸ばして反対側も伸ばしてを繰り返していくと、やがてケーブルが地上に到達して地上と宇宙を一本で結ぶ長大のケーブルが出来た。昇降機を取り付けて人や物を輸送できる宇宙エレベーターが完成していた。宇宙エレベーターは地球の重力の下へ引っ張られる力と遠心力で上に飛び出そうとする力が一致して静止軌道の高度を維持して周り続けてる。宇宙エレベーターは上からカウンター重りと高軌道ステーションとクライマーと火星ステーションと静止軌道ステーションと低軌道ステーションとクライマーと地上ターミナルとなってる。スティーブンは、「パピュラス星に行けるスペースステーションゲートとして誰かが設置した」と言って、三次元装置にアメリカ（ 亜米利加 ）の米国の（ 米 ）に切り換えて、時空転送の門をくぐっていった。スティーブンは時空転送の門をくぐってきて、宇宙エレベーターに着いて、１年の時を過ぎていたけど今度こそエイムズ研究センターにたどり着いた。スティーブンはヘルメットはずして宇宙服を脱いでギルバート博士のいる天文台の隅にある研究所に行った。研究所にいるギルバート博士はスティーブンに、「スティーブンくんか！ 無事に戻ってこれたか！ 君の生まれる前の過去の世界はどうだったかね？」と聞いた。スティーブンは、「若い頃の父さんに会うために SWAT に入隊してからが悲惨なことばかりで、この世に存在がなくなるとこだった！ でも若き父さんに会えた」と答えた。ギルバート博士は、「若い頃のお父さんに会えてどうだった？」と聞いた。スティーブンは、「勇敢でたくましかった！ ウッド隊長を偽った身がバレずに親しくなれた」と答えた。スティーブンは、「宇宙にもいけたよ！ 三次元と四次元の切り換えスイッチの事は知っていたんじゃないですか？」と聞いた。ギルバート博士は、「だから若かれし頃の私に会ったら、『ワームホールは実在すると伝えてほしい』と言っておいたんだ！ 若かれし頃の私はスイッチに気づくことは知っていた。先に宇宙にいっていたら１年も時空を越えて設定の年号日時にいけなかっただろう」と答えた。NASA の宿舎に

戻ったスティーブンは食事を食べた後でシャワーを浴びてベットに横たわってゆっくり体を癒して休んだ。翌朝に目覚めたスティーブンは目玉焼きとベーコンとハッシュドポテトを食べて１００パーセントオレンジジュースを飲んで部屋から外に出てタクシーに乗ってワシントンダレス国際空港へ向かっていった。空港に着いたスティーブンは、ワシントンダレス国際空港からロサンゼルス国際空港まで飛んでいった。空港に着いたスティーブンは、車で迎えに来ていたリチャードと会って車に乗ってロス郊外にある実家へ走っていった。車でリチャードはスティーブンに、「無事に戻れてよかった！ 若い頃ののわしはどうだった？」と聞いた。スティーブンは、「ワイルドハントだったよ！ SWAT 部隊に入隊して父さんに会うことができた」と答えた。リチャードは、「ロシアンマフィアのアルカトラズ島から脱獄計画を抑えるために動いた SWAT 部隊のチームに選ばれたのか？」と聞いた。スティーブンは、「選ばれてアルカトラズ島へ向かったんだ！ 訓練の時から出会っていたウッド隊長は俺と似てなかった！ ウッド隊長のお陰で色々と命拾いをしたけどね！」と答えた。リチャードは、「わしのときは違う隊長で入れ替わりが多くウッド隊長のことをよく覚えていないままでいたからな！ ウッド隊長は俺の命を救ってくれたけどもしかしてあれウッド隊長を偽ったスティーブンだったのか？」と聞いた。スティーブンは、「そうだよ！ 本物のウッド隊長はもっと背が高くてインテリだった！」と答えた。リチャードは、「あっ！ あの人だったか！」と言った。スティーブンは、「それとパピュラス星なんかの宇宙にいけた」と言った。リチャードは、「そうか！ それはいい大冒険だった！」と言った。リチャードとスティーブンが乗った車は LA 郊外の実家に着いた。リチャードとスティーブンは車から降りて家に入っていった。夕食の準備のできた食卓でリチャードとルーシーとスティーブンとキャメロンは、４人が揃って話をしながら食事した。キャメロンはスティーブンに、「スティーブン兄さん！ あれ！ 薬のお土産は？」と言った。スティーブンは、「あるさ！ こないだ俺と同じぐらい成長していたから俺よりも年をとってほしくないと思って頑張ったよ！ 海王星の氷山でクリスタルを採ってきた。これ以上は成長しないでトカゲのような肌が治って人間と同じように年をとっていく薬だからな！」と言って、特殊合成された袋から光輝いたクリスタルを取り出してキャメロンに手に渡した。キャメロンは、「ありがとう！ 海王星にいけたなんてすごいな！ どうやっていけたの？」と聞いた。スティーブンは、「時空転送の門からパピュラス星にいき着くことができてパピュラス星人の協力あって海王星にたどり着いた」と答えた。ニュースで見たスティーブンはドローン技術をヒントに開発された空飛ぶ車に乗ってタイムズスクエア広間に降り立ったクローン人間（ レプリカント ）のスティーブ・ジョブズが現れた。スティーブの脳に埋めていた IC チップですべてデータを復元することができた。人々の居座るスタンドの前で新しい i phone21 とナノテクノロジーとサイコテクノロジーについてスピーチをした。スティーブのクローンなんて神の冒涜に背く行為にすぎないとニューヨークタイムズの新聞に載った。ルノー家は夜にシャワー浴びてみんな寝就いたときにキャメロンだけ部屋で不思議な体験をした。キャメロンの部屋に現れたゼジルはキャメロンに、「ピューナ！ 私はどこかに生きている。いつかは必ず会いにくるからね！」と言って姿を消した。カリフォルニア州で HRE 感染者が増えずに収まっていたのは、ジークバスターズが HRE 感染者に火炎放射器を放っていったお陰でもあった。HRE ウィルスのほうが MARS コロナウィルスよりも地球外物

質で得体の知れないものだ。危険がつきまとって支配された街に HRE ウィルスを持った黒いライダースーツを着て黒いヘルメットをかぶったライダーが起爆装置を設置してモバイルフォンでボタンを一つ押して爆発させていった。HRE ウィルスの入った試験管５本を注射器に入れ替えて病院の患者５人に打っていった。病院の外に出たグラックライダーはバイクに乗って走っていったが、パトカーに追い詰められて警官がバイクのタイヤを銃で撃っていって、タイヤがパンクしたら、バイクが転倒してブラックライダーが投げ出された。立ち上がってきたブラックライダーは軽傷で警官に取り押さえられた。捕らわれたブラックライダーは HRE ウィルスを撃退するワクチンの研究している HRE ウィルス研究所を狙って HRE ウィルスを盗み出し起爆していったと供述して裁判で判決（ ジャッジ ）で裁かれた。病院から街まで繁殖して狂う HRE 感染者が拡散していった。群がる HRE は LA 郊外までやってこようとしていた。民衆は息もつかせずに呼吸してるだけで危ない時がある事で避難を余儀なくされた。海王星に移住ができるとしたら、テラフォーメーションしないと不可能である。時空転送の門は太陽系の外なら誰もが行くことができるスペースステーションゲートの三次元装置を四次元スクエアに切り換えたら、スリランカのソロモン島にある宇宙エレベーターに移動した。

1 END -

Wild Hunt New Era 2 Beyond Space-time

著　者　　八島　聖彦

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社